

アフリカ女性文学研究の発展と文献紹介

大池 真知子

目 次

はじめに

I. アフリカ女性文学研究の発展

A. アフリカ女性文学研究史

1. 男性作家が表象した女
2. 男性中心の文学史のなかの女性作家
3. 女性文学研究の歴史

注

B. 女性作家紹介

1. Ama Ata Aidoo
2. Zaynab Alkali
3. Mariama Ba
4. Tsitsi Dangarembga
5. Assia Djebar
6. Buchi Emecheta
7. Bessie Head
8. Flora Nwapa
9. Grace Ogot

II. 文献紹介

A. 本稿作成にあたり参考にした文献の目録

B. 女性文学研究に関する文献目録

C. 女性作家の作品および研究論文目録

1. Ama Ata Aidoo
2. Zaynab Alkali
3. Mariama Ba
4. Tsitsi Dangarembga
5. Assia Djebar
6. Buchi Emecheta
7. Bessie Head
8. Flora Nwapa
9. Grace Ogot

はじめに

本稿は、アフリカ女性文学研究史をたどり、その基本文献を紹介するものである。全体は大きく2部に分けてある。第I部の前半で、アフリカ女性文学研究史をたどったあと（以上I-A）、後半で、主要なアフリカ女性作家を9人選び、それぞれの作家の伝記、主要作品、研究動向を紹介する（以上I-B）。第II部は文献目録となっている。まず、本稿を作成するにあたって参考にした文献、データベースなどを表示する（以上II-A）。つぎに、第I部の前半で触れた文献を含む、アフリカ女性文学研究における主要な文献を提示する（以上II-B）。つづいて、第I部の後半で触れた9人の作家に関する文献を提示する。ここでは、最初に作家自身による文学作品、エッセイ、インタビューなど、つぎに作家についての研究論文、という順に文献を提示する（以上II-C）。

本稿が対象とする範囲について一言述べておく必要があるだろう。まず全体をつうじて、白人作家は除外している。とくに南アフリカ文学を考えるうえで、白人作家の作品も、文学を形成する重要な要素の一つであることは明らかな。しかし本稿では、アフリカ人で、有色人種で、女である作家たちの文学を紹介することに、大きな意義があると考えたため、対象を白人作家以外にしぼった。

また批評家には当然、アフリカ人だけでなく他地域出身者も、非白人だけでなく白人も、女だけでなく男も含

まれる。まず性別についてだが、本文で述べるように、初期の1960年代および1970年代には男性批評家が中心となっていたが、1980年代になると、女性批評家が多く活躍するようになる。本稿では、特別に男であることを明記しない場合、原則的に女性批評家である。

つぎに批評家の出身地、人種については、批評書による著者紹介ではほとんどの場合明らかにされていない。よってはっきりしたことは言えないが、印象としては黒人批評家が多いように思われる。だがときには、南アフリカの白人批評家なども見られる。本文で述べるように、「アフリカ」の「女」としてのアイデンティティをめぐる問題は、アフリカ女性文学が学問分野として成立する際、もっとも根源的な問いとして生じ、さらに1990年代、ポストコロニアリズムの理論と連動することで、高度に政治的な問題として発展した。したがって、かつての無自覚的なオリエンタリズムはもはや許容されない。たとえば、1995年にナイジェリアのBuchi Emecheta(ブチ・エメチェタ)についての批評書を出したKatherine Fishburn(キャサリン・フィッシュバーン)のような「(白人で、中産階級出身で、フェミニストで)西洋人の」(Fishburn xi)批評家の場合、みずから抱く異文化の視点を意識し、主流のフェミニストがアフリカの女によるテキストを読む場合に生じる権力の磁場について論じることになる。これは私見であるが、同じ黒人だがアメリカ人であるAlice Walker(アリス・ウォーカー)によって注目を集めた女性性器切除(いわゆる女子割礼)の問題も、アフリカの「伝統」文化に対する野蛮なイメージを結果的に増幅させたとして、アフリカの女たちの反発を招き、アフリカの「伝統」にもとづくアイデンティティを意識するひとつのきっかけとなったのではないかと。もっとも、概して旧植民地出身の知識人は、一生のうちかなりの移住を繰り返すため、出身地だけでアイデンティティを特定すること自体に無理がある。たとえば、もっとも初期の女性批評家の一人でもある作家のMaryse Condé(マリーズ・コンデ)は、カリブで生まれ、アフリカに移住し、その後ヨーロッパに渡り、現在はアメリカに住みながらひんぱんにカリブを訪ねている。本稿では、批評家の所属大学というレベルでしかないが、できるかぎり出身を明記するよう努めた。

以上の問題は、「アフリカ文学」と言ったときの「アフリカ」の定義の曖昧さ、そしてそこに含まれる政治の問題を鋭く反映している。いったいだれが「アフリカ」文学の担い手なのか、という問題は、いまでも確定していない。アフリカ出身者である必要があるのか?アフリカ出身でありさえすればいいのか?亡命のアフリカ文学者は?アフリカを舞台にした作品を書く欧米の白人作家は?アフリカを論じる日本人の文学者は?さらには、北アフリカはアフリカに含めるべきか、それともアラブとして除外すべきか?そしてこれらの問題に、「アフリカ」の「伝統」に対してアンビバレントな位置を占める「女」という座標が加わったとき、問題はいつそう複雑になるのである。

もうひとつの、だが同様に重要な問題として、アフリカ文学で使用される言語をめぐる議論がある。この議論については、本文中で参考文献を挙げるとして、とりあえずここでは、本稿が対象とした言語の範囲を明らかにする必要があるだろう。まず、I-Aの女性文学研究史は、筆者の知識の限界もあり、対象を英語圏のアフリカにはほぼ限っている。もっとも、アメリカの黒人女性研究とのつながりという点でも、英文学で始まったポストコロニアリズム研究とのつながりという点でも、アフリカ女性文学研究の中心は英語圏の作家にあることを書き添えておく¹。

I-BおよびII-Cで取り上げる9人の作家には、フランス語圏の作家も2人含まれている。北アフリカはフランス語が支配的であり、地域的なバランスをとるためにそこから1人選んだのと、西アフリカのフランス語圏のイスラム地域は、女性文学のひとつの中心をなしており、そこからもう1人選んだためである。なお研究論文については、英語で書かれたもののみを対象とした。もちろん文学作品についてはその限りではないが、エッセイやインタビューなどは英語のもののみとした。地域別の内訳は、北アフリカから1人、南部アフリカから2人、東アフリカから1人、西アフリカから5人となっている。地域的なかたよりは、注目されている女性作家の数をそのまま反映している。南アフリカ共和国からは、アパルトヘイト以降の作家も選びたかったが、他の作家と比べるとどうしても軽量級の感があり、今回は選ばなかった。

また、これは純粋に本稿の枚数制限から生じる限定であるが、II-Cで提示した個々の作家についての文献目録が対象とした年代についても、一言触れておく。1985年に、Brenda Berrian（ブレンダ・ベリアン）によるかなり網羅的な文献目録が出版された。それが1984年までを対象としているので、本稿の目録では、研究論文は1985年以降のものを対象とした。作家自身が書いた作品についてはもちろんこの限りではない。なお Bessie Head（ベッシー・ヘッド）については、研究論文が大量にあり、またヘッド単独の文献目録も何点か出版されているので、本稿では1990年以降のものに限った。

文献目録に関して、その他、書き方のうえでの留意点がいくつかある。第一に、I-Aの女性文学研究史で言及はしたが、女性文学研究には直接的にはかかわらない文献については、そのつどI-A末尾の注で文献情報の詳細を紹介している。第二に、II-Cで挙げた個々の作家についての研究論文で、相互参照しているものがいくつかある。それらを含むもの論文集は、原則的に、II-Bで挙げた女性文学研究全体の文献目録に完全な細目が記してある。そうでない場合は、もとの論文集の細目を、その作家の研究論文目録の筆頭に挙げてある。第三に、II-Cにおいて、短編集に含まれる短編、エッセイ集に含まれるエッセイ、論文集に含まれる研究論文などの初出は、原則的に単独の項目としては挙げていない。第四に、II-Cで文献を挙げた順序であるが、作家自身による作品は年代順、作家についての研究論文は筆者のアルファベット順にしてある。最後に、文献目録はMLA第四版のスタイルシートに従って作成している。

I. アフリカ女性文学研究の発展

A. アフリカ女性文学研究史

1. 男性作家が表象した女

本項の目的は、アフリカ女性文学研究史をたどることにあるが、アフリカ文学自体がまだあまり知られていない分野であるため、本格的に女性文学研究が始まる1970年代以前の、おおよその文学の状況と文学研究の動向を知っておく必要がまずあるだろう。したがって以下では、男性作家がいかにか女を表象してきたか、そして男性作家中心の文学研究において、女性作家がいかにか等閑視されてきたか、について簡単に触れることから議論を始めたい。

アフリカ文学最初の意識的な文学運動は、1930年代、フランス語圏アフリカおよびカリブ出身の詩人を中心に、パリで始まった。この運動は、「黒」を意味する「ネグリチュード」と呼ばれ、その名が示すとおり、黒人の文化的アイデンティティを高らかに謳いあげるものであった。「白」が象徴する論理や理性に対し、「黒」は、直感や情熱を象徴するとされ、シュールレアリズムの運動とも連動して、新たな世界観を打ち出したのである。だが、この主張が内包する本質主義は、当然批判の対象となり、とくに第二次世界大戦後の20年の間、アフリカ文学界の議論の中心となった²。そしてこの議論——すなわち、アフリカ人の文化的アイデンティティはいかにあるべきか、そして文学はそれをいかに表現することが可能か、という議論——をとおして、アフリカ文学が学問領域として発達していった。さまざまな批判はあるとしても、当時、「黒」は否定的なもののすべての象徴であり、それをあえて肯定するのは、きわめてラディカルな主張だったことは確かである。

さて、われわれの関心は、この運動において女がいかなる位置を占めていたかということであろう。その答えをもっとも端的に示す例として、ネグリチュード運動の創始者であり旗手であったセネガルの Léopold Sédar Senghor（レオポルド・セダール・サンゴール）の詩を挙げよう。

裸の女、黒い女

おまえの身をつつむその色は生命、その形は美だ！

わたしはおまえの影に育った かつてその双つの 掌のぬくもりが わたしの臉の上にあった

そしていま 真昼の正午に 黒く灼かれた 高い峠の上から わたしはおまえ、約束の大地を見出す
するとおまえの美しさが わたしの心の中核を 空を切る鷺の一閃のようにとらえる。

裸の女、闇の女

硬い果肉の熟れた果実、黒い酒の暗い恍惚、わたしの口をリリカルにするその口

純粹なる地平線のサヴァンナ、東風の熱い愛撫にふるえるサヴァンナ

彫刻されたタムタム、勝利者の指の下でとどろく緊張したタムタム

おまえのコントラルトの荘重な声は愛された女の魂のうただ。(32-3)³

上の引用から明らかなように、この詩では、詩人を育ててくれる暖かな母親としての女と、詩人の性的対象としてのエロティックな女が、切れ目なくアフリカの大地や文化の源として比喩化されている。だがこの問題ある女性表象は、前段で述べた議論ではまったく問題とはされなかった。そこでは、民族的、人種的な差異を文化的な差異とすることの是非は問われても、その差異を表象するのに、女がいかに比喩化されているかが批判的に問われることはなかったのだ。

1960年代になってアフリカ諸国が独立を果たすようになると、抽象的に「黒」を謳うネグリチュード運動は下火となり、代わってアフリカ文学の中心となったのが、個々の独立国家が直面する諸問題を現実的に描く小説であった。この新しい文学の流れを作り、長年にわたってその中心であり続けているのが、ナイジェリアの Chinua Achebe (チヌア・アチェベ) である。アチェベは、社会に生きる一個人の内面に焦点を当て、前植民地時代のアフリカ社会が、ヨーロッパの侵略によって崩壊するさまを描き、植民地時代の社会の権力関係を描き、そして欺瞞に満ちた独立を、独立後の社会の混乱を、描いてきた。以上の説明から明らかなように、抽象的な民族の主張から始まったアフリカ文学は、植民を契機とした国家の歴史と、それに翻弄される個人の物語を語るようになっていったのである。

では、国家と(男性)個人の歴史物語において、女はいかなる役割を果たすのだろうか⁴。アフリカ文学にとって記念碑的な作品となったアチェベの処女作、*Things Fall Apart* (1958) を例にとって考えてみよう。以下の引用は、アフリカの伝統社会がいかに高い敬意を母親に対して抱いているかを示すものとして、しばしば引かれる箇所である。

なるほど子供は父親のものだ。しかし父親が子供をぶつと、子供は母親の小屋に慰めを求める。人は、ものごとがうまくいって人生が心地よいときには、父親の土地に属する。しかしつらく悲しいときには、母親の土地に庇護を求める。母親はそこにいて守ってくれる。母親の骨はそこに眠っている。だからこそわれわれは言うのだ。母は偉大だと。(94)⁵

たしかに母が社会において重要な位置を占めているのは、引用から明白だ。だがこれは、主人公が罪を犯して母方の村に追放になり、母方の長老が主人公を慰めるときの言葉である。つまり母は、歴史の晴れ舞台から外れた周縁に存在する。その証拠に、主人公は、追放中に生まれた娘に「母方の親戚に敬意を表して」(115)「母は偉大だ」という意味の名をつけるが、息子には「荒野で授かったもの」という意味の名をつける。かくして女は、偉大な母として象徴化されることにより、歴史の現場から実は荒野に追いやられ、歴史を生きる(男性)主人公を周縁で支える装置として機能することになる。

以上のサンゴールとアチェベの例から明らかなように、男性作家は、民族、国家を担う男性主体を支える他者として女を比喩化してきた。社会の一員として生き、歴史を語る主体として女が描かれるようになるには、女性作家の登場を待たねばならなかったのである。だが、女の立場から女を描く女性作家が1960年代に登場しても、ジェンダーの視点が欠落した当時のアフリカ文学研究では、正当に評価されたとは言いがたい。次項では、初期の文学批評における女性作家の位置について述べたい。

2. 男性中心の文学史のなかの女性作家

「ネグリチュード」はまったく男中心の運動であったが、アチェベと同時代の独立期以降の作家——すなわち植民地時代に教育を受け、独立期前後に作品を発表し始めた作家——のなかには、少数だが女性作家はいた⁶。だが彼女らは、民族と国家中心の文学史のなかでは等閑視されてきた。

とくに初期のアフリカ文学研究は男性批評家が多く、女性作家を正當に評価しなかった。現在でも定評のあるイギリスのハイネマン社のアフリカ作家シリーズは、1960年にアチェベの処女作を第一号として始まり、その後次々と良質の作品を刊行した。よって1960年代後半から1970年代にかけて、代表的な作家を何人か選んで論評し、アフリカ文学の紹介をするといった性格の研究書がいくつか出版される。たとえば、イギリスの男性批評家 Gerald Moore (ジェラルド・ムーア) による *Seven African Writers* (1962) およびその改訂版 *Twelve African Writers* (1980)、アフリカの Eustace Palmer (ユースタス・パーマー) による *An Introduction to the African Novel* (1972) や *The Growth of the African Novel* (1979)、カリブの Oscar Dathorne (オスカー・ダソーネ) による *African Literature in the Twentieth Century* (1974年初版、1976年改訂縮小版) などである⁷。ところがこれらの研究書は、まったく女性作家を扱っていないか、さもなければごく表面的にしか女性作家に触れていない。

具体的に見るため、まがりなりにも女性作家に触れてはいるダソーネのものを紹介しておこう。まず、最初に国際的な評価を受けた女性作家であるナイジェリアの Flora Nwapa (フローラ・ンワパ) について、ダソーネはこう断じる。「ンワパのスタイルは、想像力に欠け無味乾燥だ。その結果、読者はけっしてエフル(ンワパによる同名の処女作のヒロイン)にもエフルの問題にもかかわることはない。さらに、毎日の家庭の雑事を詳細に記述することで、エフルの神秘的な存在の効果は台無しになっている」(116)。この評価は、アフリカ文学に限らずよくある、女性作家に対する低い評価の典型的な例だといえる。だが実は、あえてヒロインのこまごまとした日常生活を描くことで、ヒロインを脱神話化し、現実社会に生きる存在として女を創造するというのは、女性作家の戦略なのだ。また、ダソーネが名前を挙げている数少ない女性作家のなかで、部分的にはあるが唯一肯定的に評価されているのが、ケニアの Grace Ogot (グレイス・オゴト) である。オゴトに対する評価を引用する。「全体として、グレイス・オゴトの作品は、アフリカの女にかかわっている。*In the Promised Land* において、ニヤボル(ヒロイン)は、愛情深い妻として美しく描かれ、作品の唯一の救いとなっている。夫婦の問題が夫でなく自分のせいで起きるのだと迷わず考え、彼女は村を去る。なぜなら彼女は、それが妻としての義務だと考えるからだ。短編でも、グレイス・オゴトの女たちは、強い義務感を持っている。部族の家族に対して族長の娘が抱く義務感、厳格な道徳観に対してエリザベスが抱く義務感など」(131)。この賛辞を、この男性批評家にとって望ましい女性像のみが評価されていることの現われだと思えるのは、あながち無理なことではない。さらに不可解なのは、南アフリカの「カラード」の女性作家、ベッシー・ヘッドの扱われ方である。彼女は本文中でまったく言及されていない。にもかかわらず、表紙には彼女の写真が載っている。表紙のデザイナーは、著名なヘッドが当然言及されていると考えたのだろうが、この不一致について何の処置もとらないというのも、なんとも女性作家をバカにした態度ではなからうか。

もうひとつ、アフリカ文学研究で女性作家が低くしか評価されないことを示す例を挙げよう。先に述べたハイネマンのシリーズは、シリーズ刊行以来6年たって初めて女性作家の作品を選んだ。その間実に25冊の男性作家による作品が刊行されている。2冊目はその4年後、つまり1970年、さらに29冊の男性作家の作品を挟んで刊行されている⁸。

上の例から明らかなように、男性批評家を中心となっていた初期のアフリカ文学研究では、女性作家は周縁に置かれていた。女性作家が書いた作品をジェンダーの視点から正當に評価し、女性文学なるものがジャンルとして確立するのは、次の項で述べるように、70年代の女性運動を経て80年代になってからなのである。

次の項でいよいよ、アフリカ女性文学研究が独立した学問領域としていかに発達していったかを追っていく

が、その前に、90年代現在のアフリカ文学研究全体のなかで、女性作家が占める位置について述べておこう。アフリカ文学史の今のところは決定版と考えていいものが、1993年に出された *A History of Twentieth-Century African Literatures* である⁹。そこでは1～5章を英語圏アフリカ文学、6～8章をフランス語圏アフリカ文学、9章をポルトガル語圏アフリカ文学、10章をアフリカ諸語の文学、11章をアフリカ女性作家、12章を言語の問題、13章をアフリカにおける出版、にそれぞれ当てている。この章だてから明らかなように、女性文学というのは、文学史の主流に組み入れることは難しいが、言語、出版に並ぶ、論じるべき問題のひとつとしてとらえられているのである。触れないわけにはいかないが、本流からは外れた作家たち——このような誇らしいゲッターが、女性作家が今日置かれている位置だといえる。

3. 女性文学研究の歴史

a. 1970年代——女性文学研究のあけぼの

1970年代の世界的な女性運動に影響を受け、アフリカ文学におけるジェンダー研究は、70年代初期、おもに男性作家がいかに女を表象しているかについての研究から始まる。当時の批評家はほとんどが男性であった。Wilfred Cartey (ウィルフレッド・カーティ) は *Whispers from a Continent* (1969) において、ネグリチュードの詩で、母がアフリカの象徴として神話化されている構造を分析するが、それを批判的に論じるというよりは、ひとつの語りの方策として肯定している。また、作品中の女の登場人物について論じたものは、ナイロビ大学の G. C. M. Mutiso (ムティソ) の “Women in African Literature” (1971) に始まる。エディンバラ大学の Kenneth Little (ケネス・リトル) は *The Sociology of Urban Women's Image in African Literature* (1980) において、さまざまな文学作品における女の登場人物を、6つのカテゴリー——恋人と愛人、妻、「自由」な女、母、高級娼婦と売春婦、政治活動家と労働者——に分類した。これらの分類項目から明らかなように、ここで女は、主として男との関係における客体としてとらえられている。しかしなによりも、リトルの限界はその断片性にある。彼は雑多な文学作品から女性の登場人物を選び出して解説するだけで、彼女らが各作品のエコノミーのなかでどう作用しているかについては分析しない。この文学分析としての限界ゆえに、タイトルが「社会学」となっているであろう。

だが70年代には、女性作家を女性批評家がジェンダーの視点から論じる論文が、散発的ではあるが発表される。例えば Yinka Shoga (インガ・ショガ) の “Women Writers and African Literature” (1973) や、アメリカの批評家 Roseann P. Bell (ロゼアン・P・ベル) の “The Absence of the African Woman Writer” (1978) である。なかでもカリブ出身の女性作家 Maryse Condé (マリーズ・コンデ、「はじめに」を参照) は、“Three Female Writers in Modern African Fiction: Flora Nwapa, Ama Ata Aidoo and Grace Ogot” (1972) において、3人のアフリカ女性作家を、フェミニズムの理論を文学で実践する者にとらえ、評価している。作品がコンデ自身の理論に合致しないことを嘆くなど、作品の正当な評価よりもイデオロギーが先走っている感はあるが、当時これを発表したことは、ジェンダー批評にとっては大きな前進であった。また、ともにアメリカで研究活動を行うベルら編集の *Sturdy Black Bridges: Visions of Black Women in Literature* (1979) は、アフリカだけでなく、カリブやアフリカ系アメリカの文学も対象としているが、アフリカ女性文学研究に関係する論文を4篇含んでいる¹⁰。

b. 1980年代——女性文学研究の発展：女性作家の開花と理論化の試み

1980年代になると、作品を発表する女性作家の数も次第に増えていく。その結果、1983年、先に述べたハイネマンのシリーズから初の女性作家の作品集が、当時アイオワ大学でアフリカ女性文学研究の中心となっていた Charlotte H. Bruner (シャーロット・H・ブルナー) 編集により刊行される。北アフリカを含むアフリカ全土から、24人の作家が選ばれており、植民地時代に作品を書いた黒人女性作家による先駆的な作品も収録されてい

る。もともと、ハイネマンのシリーズが始まって以来21年が経過し、256冊目にしてやっと刊行されたという感否めない。また85年には、ピッツバーグ大学のBrenda Berrian (ブレンダ・ベリアン)の手によって、300ページ近い女性作家の文献目録が出版される。ベリアンは、さらに88年にも、26ページの簡単なものではあるが文献目録を公表し、主要な作家についてはフォローアップをしている。以上のことから、80年代には、女性作家が多く輩出し、女性文学がひとつの学問領域として成立する準備ができたのだともいえる。

80年代には、批評もまた飛躍的な発展を遂げる。まず、女性作家のみを扱った単独の批評書、*Women Writers in Black Africa* (1981) が、南カリフォルニア大学の男性批評家Lloyd Brown (ロイド・ブラウン)によって書かれる。ブラウンは男性ながら、「主要なサハラ以南のアフリカ女性作家のキャノンを確立した」(Cobham 138)として高い評価を得ている。ブラウンは、単なる紹介にとどまらず、序でアフリカ文学研究史をジェンダーの側面から概説し、第2章で、それまであまり知られることのなかったごく初期の女性作家から女性文学史をたどる。そして3章から7章にかけて、5人の代表的な女性作家を各々論じている。この批評書は、90年代も後半になった今でも言及されることがしばしばあり、時代的な制約を超えた洞察力に満ちているといえる。これと同じ傾向の、単独の男性批評家が何人かの主要な女性作家を選んで作品分析をするものとして、ナイジェリアのラゴス大学のOladele Taiwo (オラデレ・タイウオ)による*Female Novelists in Modern Africa* (1984)がある。しかしその分析に対して、女性批評家や女性作家たちからは、「偏っている」(Davies, "Introduction" 5)、「表面的」(Davies & Fido 339)、「陳腐で不正確」(Stratton, *Contemporary* 4)という評や、女性作家を「あたかも自分がめとった多くの妻たちであるかのように、気まぐれにほめてやっている」(Aidoo 166)という評が多く、評判が悪い。

さらに86年には、二人の女性批評家、フロリダ国際大学のCarole Boyce Davies (キャロル・ボイス・デイヴィーズ、当時ニューヨーク州立大学)とコーネル大学のAnne Adams Graves (アン・アダムス・グレイヴス)編集で、女性文学評論集、*Ngambika: Studies of Women in African Literature* が出版される。両批評家ともに、アフリカの大学で学んだり教えたりした経験があり、後述するように、とくにデイヴィーズの90年代になってからの活躍はめざましい。序を含む19本の論文のうち、16本が女性研究者によるものであり、女性作家だけでなく女性研究者も次第に活躍するようになってきたことを示すものとして興味深い。もともと女性研究者が単独で一冊の研究書を出すには、時期尚早であった。デイヴィーズとニューヨークの社会研究所のElaine Savory Fido (エレヌ・サヴォリー・フィド、ガーナ、ナイジェリア、カリブの各大学で教鞭をとった経験がある)が指摘するように、女性研究者はまとまった時間がとりにくい傾向にあるからだろう (340)。

*Ngambika*の最大の功績は、デイヴィーズの序にある。彼女はそれまでの女性文学研究を詳細にたどり、アフリカ女性文学研究史を跡づけただけでなく、アフリカ・フェミニズムの基本となる枠組みを定義したのである。

これらの批評家〔アフリカ女性文学批評家〕の視点には、二つの影響が見られ、したがってある種の緊張が見られる。一方で、アフリカの人々を新植民地主義ならびにその他の人種的、階級的な抑圧から解放しなければならないということ、さらに、伝統的なアフリカ文化が持つ特長を尊重しようということが基本にある。また他方で、国際的な女性運動の影響があり、アフリカ社会における女の位置を検証するにはフェミニストの意識が必要であると認識されてもいる。このように、両方に忠実であるために生じる緊張が結び目となって、この批評〔デイヴィーズらが実践する批評〕が生まれてくるのである。(“Introduction” 1)

上の引用は、「アフリカ」の「女」の自己定義に必然的に含まれる二重の決定項——「人種／民族」と「ジェンダー／セクシュアリティ」——を、アフリカ・フェミニズムを定義するコードとして、明確に打ち出している。この二重の枠づけは、アフリカ女性文学研究のみならず、広くアフリカ女性研究、さらには第三世界の女性研究において、このあと90年代に至るまで議論の中心となるものであり、デイヴィーズがこの時期にこの点を文学研

究の面から指摘したことは、重要である。デイヴィーズは、明らかに Elaine Showalter (エレイン・ショウウォーター) に倣って、評論集全体を、①男性作家による女性像の再検討、②女性作家による自己定義の分析、③女性にかかわる社会的、政治的テーマの考察——の3部に分けており、このことから、彼女が主流のフェミニズムを強く意識したうえで、アフリカのフェミニズムを確立しようとしている意気込みが伝わってくる¹¹。

デイヴィーズの論文とほぼ同時期に、デイヴィーズと似たような趣旨の、やはり大きな影響を及ぼした論文が、雑誌 *Signs* に発表される。ナイジェリアのイバダン大学でナイジェリアの女性研究の中心となっている Chikwenye O. Ogunyemi (チクウェニエ・O・オグニエミ) による “Womanism: The Dynamics of the Contemporary Black Female Novel in English” (1985) である。オグニエミはこの論文において、アフリカの女性文学を例に分析しながら、それまで白人中心だったフェミニズムを黒人の視点から再検討し、ウーマニズムという黒人独自のフェミニズム——すなわちジェンダー/セクシュアリティ以上に、人種/民族をより重要な決定項とするフェミニズム——を提唱する¹²。デイヴィーズとの違いは、デイヴィーズが二つの決定項を同等に見ているのに対し、オグニエミは、既存のフェミニズムに対するアフリカ側からの対抗もあって、人種/民族を優先させている点である。*Signs* はいうまでもなく、アメリカのフェミニズム研究の中心に位置する雑誌であり、アフリカの女を代表してそこに論文を発表するという政治的な意図が、強く働いていたに違いない。オグニエミの論文は、90年代になって本格化するアフリカ独自のフェミニズム理論を追究する動きのなかで、ウーマニズムという言葉とともに何度も言及されることになる。

次の項目に移る前にもう一点、デイヴィーズの序が明らかにした重要な点を指摘しておきたい。それは、女性文学を口承文学と結びつけることが必要だという論点である。伝統的な口承文学と、ヨーロッパ諸語で書かれた近代文学との関係は、以前からアフリカ文学が抱える大きな問題であったが、80年代になってその問題がきわめて政治的な面から論じられるようになった¹³。その議論の口火を切ったのが、ナイジェリアの男性批評家 Chinweizu (チンウェイズ) らのグループである。彼らは、本来のアフリカ文学は、アフリカ人によってアフリカの言葉でもって書かれなければならないと主張し、その挑戦的な民族主義は、多くの議論を巻き起こした。さらにケニアの男性作家 Ngugi Wa Thiong'o (グギ・ワ・ジオンゴ) は、*Decolonising the Mind: The Politics of Language in African Literature* (1986) において、マルクス主義的な視点から、言語の問題を階級、民族の問題と結びつけて論じた。だがこれらの活発な議論は、ジェンダーの視点から考察されることはなかった。この議論を背景に、デイヴィーズは、口承文学をジェンダーの視点から研究すること、そしてまた、口承文学の伝統をもとにして女性文学を研究することが必要だ、とするのである。残念ながら、デイヴィーズの指摘は指摘以上ではなく、論文集に収録された論文でも、この点に踏み込んで分析したものはない。だが、言語の問題、口承文学の問題が、ジェンダーの問題とも交差されつつ、批評理論的な視座から論じられるようになる90年代を先取りしていたという面で、デイヴィーズの指摘は注目に値するといえる。

ここまで女性文学およびその研究が盛んになるとさすがに、男中心のアフリカ文学界も女性文学を無視していることはできなくなり、80年代後半になって、アフリカ文学研究の主要な学術雑誌、*African Literature Today* と *Research in African Literatures* が、1987年と1988年にあいついで女性文学特集を組む。前者の編者の言葉を借りれば、「ここ10年ほどの間、アフリカ女性作家による完成度の高い作品がめざましい勢いで花開いており、それらを無視しつづける言い訳が立たなくなつて」(1) きたのである。さらに後者は、その序でアマースト大学の Rhonda Cobham (ロンダ・コブハム) が宣言するように、「きっちりとした理論に基づいた」(138) 特集を試みている。コブハムは、それまでのアフリカ女性文学研究を批判して言う。「アフリカ女性作家研究の多くは、ある作家を女性であると認めさえすれば、その作家の作品をアフリカ男性作家と別のカテゴリーに置くことができる、としていたように思われる。批評の方法、理論上の概念、形式と政治意識の問題を扱うに際して、ジェンダーが差異を形成するのに役立つファクターとなりうるものが、まったく意識されていなかった」(138)。これら二誌の序の言葉は、80年代のアフリカ女性文学の主要な動き——女性作家の活躍と女性文学研究を理論化

する試み——を、それぞれ端的に表しており、興味深い。

このように、80年代もとくに後半になると、ジェンダーが批評的な視点として注目されるようになってくる。だがこの時点では、単独の批評家がまとまった研究書を出すのではなく、さまざまな批評家による論文集、または多少寄せ集め的な雑誌の特集、という形で研究がなされているため、個々の論文が理論に立脚していても、全体を見通せるような女性文学理論として体系化されるまでには至ってはいない。それには90年代になるまで待たなければならなかった。

c. 1990年代——女性文学研究の成熟：理論の体系化・精密化

80年代の女性文学の発展を受け、90年代の初頭には、中米ガイアナ大学の Adeola James (アデオラ・ジェイムズ) による女性作家のインタビュー集、*In Their Own Voices: African Women Writers Talk* (1990) と、ブラナー (Bruner) 編によるハイネマン・シリーズからの2冊目の女性作家の作品集 (1993) が出版される。この作品集は、1冊目の作品集から10年後に出されたことになり、1冊目が出されるまでにかかった年月と比べると、80年代から90年代にかけての女性作家の勢いがよくわかる。それを表すのが、第2作品集の前書きの言葉である。「アフリカ女性文学作品集、*Unwinding Threads* (1983) ……には、『今日、物語を執筆するアフリカの女は、いくらか珍しいと言わねばなるまい』と、前書きがされている。この命題は正しいが、現在、アフリカ女性作家は、もはや『荒野』から叫ぶ孤立した声ではない。彼女たちの声は、本国や外国の聴衆に届き、お互いの声を意識している。早くから出版し、今も書いている作家は、新しい作家の役割モデルとなっている」(Bruner, *Heinemann* vii)。この言葉から、90年代初期、女性文学が一つのジャンルとして確立し、その伝統が形成されつつあることが明らかである。

個々の作家の研究も進み、主要な作家に関しては、一人の研究者が単独の作家について論じる批評書や、単独の作家についてこれまで書かれた論文を集めた論文集も出版される。前者の例としては、ガーナ出身の男性批評家 Vincent O. Odamtten (ビンセント・O・オダムティン) による *The Art of Ama Ata Aidoo: Polylectics and Reading Against Neocolonialism* (1994)、ミシガン大学の白人女性批評家 Katherine Fishburn (キャサリン・フィッシュバーン、「はじめに」参照) による *Reading Buchi Emecheta: Cross-Cultural Conversations* (1995) などが挙げられる。後者の例としては、ナイジェリア出身の Marie Umeh (マリー・ウメー、現ニューヨーク市立大学。ナイジェリアのアナンブラ州立大学でも7年教えた) 編集の *Emerging Perspectives on Buchi Emecheta* (1996) および *Emerging Perspectives on Flora Nwapa: Critical and Theoretical Essays* (1998)、ニューヨーク州立大学の Ada Uzoamaka Azodo (アダ・ウゾアマカ・アゾド) と東カリフォルニア大学の Gay Wilentz (ゲイ・ウィレンツ) 編集の *Emerging Perspectives on Ama Ata Aidoo* (1998) が挙げられる。また、フローラ・ンワパ (Flora Nwapa) の死後、1995年に組まれた *Research in African Literatures* のンワパ特集も、後者の範疇に入るだろう。とくにベシー・ヘッド (Bessie Head) については、文献目録も含めて多くの研究書が出版されている¹⁴。

個々の作家研究の発展もさることながら、女性文学研究全体にとって記念碑的な研究書が、1994年に出版された。90年代に出るべくして出た研究書、ニューヨークのカソリック・ワーカーの Florence Stratton (フローレンス・ストラトン、シエラレオネのンジャラ大学で19年教えた) による *Contemporary African Literature and the Politics of Gender* である。ストラトンは、この重要な研究書において、アフリカ文学をジェンダーの視点から再検討することを求めている。序で、ポストコロニアリズム理論の文脈に位置づけながらアフリカ文学研究史をたどり、アフリカをはじめとするこれまでの第三世界の文学研究においては、ジェンダーの視点が欠落していることを証明する。さらに第1部で、男性作家による女性表象を分析する。これらは今まででも行われてきた批評だが、ストラトンほどラディカルに理論を交差させた研究はなかった。第2部では、主要な女性作家を一人一人取り上げて分析し、それをとおして女性文学の伝統を構築しようと試みる。これまでの研究では、個々の作家の分析で終わるのが大半で、そこから全体的な伝統を見通すまではいかなかった。女性文学の伝統の構築というの

は、ストラトンがすでに“The Shallow Grave: Archetypes of Female Experience in African Fiction”(1988)という論文で小規模ながら試みていたことである。第3部で、女性作家による異議申し立てに対して、男性作家がそれぞれの作品中でどう応えたかを分析する。これによって、ジェンダーは、アフリカ文学を創造しかつまた研究する者にとって、文学史全体の書き直しを迫るほどの重要なコードであることが明らかにされた。一言で言えば、ストラトンの研究書は、アフリカ文学研究をジェンダーの視点から再理論化したのである。

ストラトンだけでなく、90年代のアフリカ女性文学研究全体が、アフリカ女性文学理論を構築することに力を注ぐようになる。それらは一様に、フェミニズムとポストコロニアリズムの理論を交差させ、ジェンダー／セクシュアリティと人種／民族が、アフリカ女性文学を形成する重要な批評コードであるとしている。ナイジェリアの女性作家 Phaniel Akubueze Egejuru (ファニユエル・アクブエゼ・エゲジュル) とカリフォルニア大学の Ketu H. Katrak (ケチュ・H・カトラク) 編による *Nwanyibu: Womanbeing and African Literature* (1997)、Juliana Makuchi Nfah-Abbenyi (ジュリアナ・マクチ・ンファ＝アベニ) による *Gender in African Women's Writing: Identity, Sexuality, and Difference* (1997)、Roopali Sircar (ルーパリ・サーカー) による *The Twice Colonised: Women in African Literature* (1995) はすべて、上の二重のコードによりアフリカ文学を論じている。

ストラトンのように鳥瞰図的な意図をもった研究が現れる一方で、アフリカ女性文学研究のなかで細分化が進んだのも1990年代の特徴である。例えば *Research in African Literatures* は、1994年に、口承文学としての女性文学を特集し、また1997年の自伝の特集は、その多くを女性作家の研究に当てている。一方、インディアナ大学の Obioma Nnaemeka (オビオマ・ンナエメカ) 編の *The Politics of (M)othering: Womanhood, Identity, and Resistance in African Literature* は、そのタイトルから明らかなように、母性の分析に力点を置いた研究である。

また、地理的な細分化も行われ、国別、地域別の女性作家論も登場する。西アフリカに関しては、Aduke Adebayo (アドウケ・アデバヨ) 編の *Feminism and Black Women's Creative Writing: Theory, Practice, and Criticism* (1996) や、スコットランドのスターリング大学の Stephanie Newell (ステファニー・ネウエル) 編による *Writing African Women: Gender, Popular Culture and Literature in West Africa* (1997) などがある。とくに文学活動が盛んなナイジェリアのみを論じたものとしては、ナイジェリアのポート・ハーコート大学の Henrietta C. Otokunfor (ヘンリエッタ・C・オトクネフォー) と同大の Obiageli C. Nwodo (オビアゲリ・C・ンウォド) 編による *Nigerian Female Writers: A Critical Perspective* (1989) や、ナイジェリアのイバダン大学の オグニエミ (Ogunyemi) による *Africa Wo/Man Palava: Nigerian Novel by Women* (1996) などが挙げられよう。ポート・ハーコート大学の Helen Chukwuma (ヘレン・チュクウマ) 編による *Feminism in African Literature: Essays on Criticism* (1994) および Gloria Chineze Chukukere (グロリア・チネゼ・チュクケレ) による *Gender Voices and Choices: Redefining Women in Contemporary African Fiction* (1995) は、主としてナイジェリアを論じながら、他のアフリカ文学にも言及している。また、ナイジェリア女性作家の作品集としては、数人の有名な女性作家の陰に隠れて、これまで注目されてこなかった女性作家の作品を集めた *Breaking the Silence: An Anthology of Short Stories By the Women Writers of Nigeria* (1996) が、ともに作家である Toyin Adewale (トイン・アデワレ) と Omowunmi Segun (オモウンミ・セグン) 編により出版されている。南アフリカに関しては数多くの作品集が出ている。初期のもっとも有名な Susan Brown (スーザン・ブラウン) 他編の *Lip from Southern African Women* (1983) をはじめとして、南アフリカの詩人であり活動家でもある Lindiwe Mabuza (リンディウエ・マブザ) 編の *One Never Knows: An Anthology of Black South African Women Writers in Exile* (1989) や、英語だけでなくアフリカンス語とズール語のものを含む、Cherry Clayton (チェリー・クレイトン) 編の *Women and Writing in South Africa: A Critical Anthology* (1989) がある。研究書では Maureen N. Eke (モーリーン・N・エケ) による *From the Heart: Women and Liberation in New Writings by Black South African Women* (1993) や、M. J. Daymond (M・J・デイモンド) 編集の *South African Feminisms: Writing, Theory, and Criticism, 1990-1994* (1996) などが出ている。東アフリカに関する最近のものは、筆者が探した限りでは見つけることができなかった。北アフリカはフランス語が支配的

であるため、本稿の対象から外れるが、筆者の限りある知識の範囲内で挙げるとすれば、カリフォルニア大学の Winifred Woodhull (ウィニフレッド・ウッドフル) による *Transfigurations of the Maghreb: Feminism, Decolonization, and Literatures in French* (1993) などがある。

また1990年代、上述のローカル化と同時に、他方では通文化的な研究傾向も顕著になる。この動きは、文化人類学など社会科学の分野では1980年代にすでに始まっており¹⁵、文学研究でもオランダの Mineke Schipper (ミネケ・スキッパー) 編集の *Unheard Words: Women and Literature in Africa, the Arab World, Asia, the Caribbean, and Latin America* (1984) などが出版されていたが、とくに90年代になって、多くの作品集や研究書があいついで出版される。代表的な作品集としては、ガーナ出身で在イギリスのジャーナリスト Margaret Busby (マーガレット・バスビー) 編集による350ページに及ぶ *Daughters of Africa: An International Anthology of Works and Writings by Women of African Descent from the Ancient Egyptian to the Present* (1992) がまず挙げられよう。さらに、デイヴィーズとナイジェリアの Molaria Ogundipe-Leslie (モララ・オグンディペ=レズリー、後述) 編集の *Moving Beyond Boundaries, vol. 1: International Dimensions of Black Women's Writing* (1995) は、エッセイ、短編小説、詩を含む。評論としては、コモンウェルスを扱った、ホマートン大学をはじめイギリスの諸機関で活躍しているインド系の Susheila Nasta (スシェイラ・ナスタ) 編による *Motherlands: Black Women's Writing from Africa, the Caribbean and South Asia* (1991) や、Cynthia Vanden Driesen (シンシア・バンデン・ドライセン) による *Centering the Margins: Perspectives on Literature in English from India, Africa, Australia* (1995) の他、西アフリカとアメリカ合衆国の女性文学を比較した東カリフォルニア大学の Gay Wilentz (ゲイ・ウィレンツ) による *Binding Cultures: Black Women Writers in Africa and the Diaspora* (1992) や、ノース・カロライナ州立大学の Karla F. C. Hollway (カルラ・F・C・ホルウェイ) による *Moorings and Metaphors: Figures of Culture and Gender in Black Women's Literature* (1992)、さらにカリブとイギリスの視点も加えた、ケンブリッジのアングリシア・ポリテクニクの Gina Wisker (ジーナ・ウイスキー) 編による *Black Women's Writing* (1993) や、デイヴィーズによる *Black Women, Writing and Identity: Migrations of the Subject* (1994) などがある。また、デイヴィーズ編の *Moving Beyond Boundaries, vol. 2: Black Women's Diasporas* (1995) は、アフリカ、ラテンアメリカ、カリブ、ヨーロッパ、アメリカ合衆国の黒人の女性作家を対象にしたインタビューと論文を含み、ノース・カロライナのウエイク・フォレスト大学の Mary K. DeShazer (マリー・K・デシャザー) による *A Poetics of Resistance: Women Writing in El Salvador, South Africa, and the United States* (1994) は、タイトルに挙げられている3カ国における抵抗、革命の詩についての評論である。

上のような黒人間の通文化的な研究の流れを受け、アフリカ系アメリカ人の女が主流だった黒人フェミニズムに大陸アフリカの視点を加え、主流のフェミニズムに潜む白人女性中心主義に対してよりダイナミックな異議申し立てをしていこうという動きが、社会科学、人文科学などの分野横断的に出てくる。ここでとくに強調されたのは、アフリカの母親たちが昔からそれぞれの社会の中で育み、今も形を変えて継承している、伝統的な女の自立の知恵である。ここでは、とくに文学の分野からの貢献を挙げておく。まず、*Re-Creating Ourselves: African Women and Critical Transformations* (1994) を著したオグンディペ=レズリー (Ogundipe-Leslie) は、詩人であり、文学批評家であり、活動家であり、ナイジェリアでの運動を通じて彼女が語るアフリカのフェミニズムは、文学だけでなく広い領域で影響を及ぼしている。論集でよく引かれる論文は、“African Women, Culture and Another Development” および “The Female Writer and her Commitment” である。もともと文学批評理論が専門であるナイジェリアのオバフェミ・アウオロウオ大学の Mary E. Modupe Kolawole (マリー・E・モドゥペ・コアウォレ) は、*Womanism and African Consciousness* (1997) のなかで、アフリカ独自のフェミニズムを模索している。その多くのページは文学作品の分析に費やされているものの、この研究書の貢献はむしろ、英語圏中心の現在のアフリカ学会ではとくに等閑視されがちな、フランス語圏アフリカのフェミニストの成果を交えて、理論の発展の概括をしていることにあり、文学批評以外の分野でも役に立つと思われる。インディアナ大学

のンナエメカ (Nnaemeka) もやはり文学批評家であるが、ナイジェリアで開催された「アフリカとアフリカ・ディアスポラの女性会議」をもとに彼女が編集した *Sisterhood, Feminisms and Power: From Africa to the Diaspora* (1998) は、作家、活動家、文化人類学者、歴史家、などさまざまな分野の女たちが文章を寄せ、アフリカの視点からジェンダー研究を行いたいと考えるあらゆる者にとり、非常に有益なものとなっている。このように、さまざまな分野の成果を共有することで、アフリカの女独自の経験全体を説明しうる理論を形成し、さらにフェミニズムとポストコロニアリズムの両理論を交差させて、ジェンダー、人種、民族、宗教、階級、などさまざまな軸足を持つ新しい解放の理論を目指そうという動きが、アフリカの女性研究全体をつうじて出てきているのである。残念ながら、アジアのガヤトリ・スピヴァックやトリン・ミンハに並ぶような先鋭的な理論家はアフリカからはいまだ輩出していないが、今後の発展がますます楽しみである。

注

1. 参考までに、フランス語圏アフリカの女性作家研究の文献目録を、いくつか示しておく。Christine H. Guyonneau, "Francophone Women Writers from Sub-Saharan Africa: A Preliminary Bibliography," *Callaloo* 24 (1985): 453-83. また、*Callaloo* 29 (1986): 694-736は、マダガスカル、モーリシャス、レユニオンの女性作家に関する文学研究、文学作品を扱っており、貴重である。Beverly Ormerod, and Jean Marie Volet, "Francophone Women Writers from Sub-Saharan Africa: An Annotated Bibliography," *African Literature Association Bulletin* 18.4 (1992): 15-22. さらに Irene A. D'Almeida, *Francophone African Women Writers: Destroying the Emptiness of Silence* (Gainesville: UP of Florida, 1994) および Mary Jean Green, Karen Gould, Maximin Micheline Rice, Keith L. Walker, and Jack A. Yeager, eds, *Postcolonial Subjects: Francophone Women Writers* (Minneapolis: U of Minnesota P, 1996) も参考になる。
2. ネグリチユードをめぐる議論については、Rand Bishop, *African Literature, African Critics: The Forming of Critical Standards, 1947-1966*, Contributions in Afro-American and African Studies 115 (Westport, CO: Greenwood, 1988) を参照。
3. レオポルド・セダール・サンゴール著『レオポルド・セダール・サンゴール詩集』日本セネガル友好協会編1979年 pp. 32-3.
4. アチェベの女性表象については、Oike Machiko, "Women, Narrative and History in African Literature: A Comparative Study of Chinua Achebe and Buchi Emecheta," diss., Ochanomizu U, 1998 を参照。
5. Chinua Achebe, *Things Fall Apart* (1958; London: Heinemann, 1976) 94.
6. それどころか、1910年代に母語で作品を発表した女性作家すら存在する。例えば Lillith Kakaza (リリス・カカザ。およそ1885-1950) は、1913年から14年ごろ、コーサ語で短い中編小説と長編小説を出版している。
7. Gerald Moore, *Seven African Writers* (London: Oxford UP, 1962). Gerald Moore, *Twelve African Writers* (London: Hutchinson, 1980). Eustace Palmer, *An Introduction to the African Novel* (London: Heinemann, 1972). Eustace Palmer, *The Growth of the African Novel* (London: Heinemann, 1979). Oscar Dathorne, *African Literature in the Twentieth Century, Studies in African Literature* (1974 as *The Black Mind: A History of African Literature*, Minnesota: U of Minnesota P; London: Heinemann, 1976)
8. 1冊目は、Flora Nwapa, *Efuru*, African Writers Ser. 26 (London: Heinemann, 1966)、2冊目は Flora Nwapa, *Idu*, African Writers Ser. 56 (London: Heinemann, 1970) であった。本稿でも取り上げたグレイス・オゴトも、1966年に処女作を発表しているが、処女作だけでなくオゴトの多くの作品は、ケニアの出版社の版しか流通しておらず、非常に入手しにくい状況となっている。
9. Oyekan Owomoyela, ed., *A History of Twentieth-Century African Literatures* (Lincoln: U of Nebraska P, 1993).
10. Karen Chapman, "Introduction to Ama Ata Aidoo's *Dilemma of a Ghost*," pp. 25-38; Sonia Lee, "The Awakening of Self in the Heroines of Ousmane Sembene," pp. 52-60; Marie Linton-Umeh, "The African Heroine," pp. 39-51; Andrea Benton Rushing, "Images of Black Women in Modern African Poetry: An Overview," pp. 18-24.
11. Elaine Showalter, ed., *The New Feminist Criticism* (New York: Pantheon, 1985). 邦訳、エレイン・ショーウォーター編『新フェミニズム批評——女性・文学・理論』青山誠子訳 岩波書店 1990年
12. ウーマニズムといえばアフリカ系アメリカ人のアリス・ウォーカーが提唱したものが有名だが、オグニエミはウォーカーとはべつに、だがウォーカーときわめて近い概念に到達したとしている。Alice Walker, *In Search of Our Mother's Gardens* (San Diego: Harcourt, 1983) 参照。アフリカ系アメリカ人の間でのその後の議論の展開については、Clenora Hudson-Weems, *African Womanism: Reclaiming Ourselves* (2nd rev. ed. Troy, MI: Bedford, 1994) および Tuzyline J. Allan, *Womanist and Feminist Aesthetics: A Comparative Review* (Athens: Ohio UP, 1995)などを参照。
13. 言語、口承文学の問題については、以下の文献を参照。Chinweizu, Onwuchekwa Jemie, and Ihechukwu Madubuike, *Toward the*

Decolonisation of African Literature: African Fiction and Poetry and Their Critics (Enugu, Nigeria: Fourth Dimension, 1980). Ngugi Wa Thiong'o, *Decolonizing the Mind: The Politics of Language in African Literature*, Studies in African Literature (1986; London: Currey, 1992). Oyekan Owomoyela, "The Question of Language in African Literatures." *A History of Twentieth-Century African Literatures*, ed. Oyekan Owomoyela (Lincoln: U of Nebraska P, 1993) 347-68. *African Literature Today* 17 (1989) Special issue on Question of Language. *African Literature Today* 18 (1990) Special issue on Orature. *Research in African Literatures* 23.1 (1992) Special issue on The Language Question. *Research in African Literatures* 24.2 (1993) Special issue on Oral Literature. *Research in African Literatures* 28.1 (1997) Special issue on The Oral-Written Interface.

14. ここで注記しておきたいのが、ヘッダの特別な位置である。彼女は、女性作家のなかでも早くから評価が確立され、しかもその評価を今なお維持している例外的な作家であり、ここで述べる女性作家研究の歴史の流れとは、別枠で考えるべきであろう。もっともヘッダ研究の関心の多くは、セクシュアリティ/ジェンダーよりは土地や人種に焦点が当てられており、それゆえ主流の文学研究に取り入れられやすかったのだと思われる。詳しくはI-Bのヘッダの項参照のこと。
15. たとえば次の研究書を参照。Filomina Chioma Steady, ed., *The Black Woman Cross-Culturally* (Cambridge, MA: Schenkman, 1981). Rosalyn Terborg-Penn and Andrea Bonton Rushing, eds., *Women in Africa and the African Diaspora: A Reader*, 2nd ed. (1987; Washington, D.C.: Howard UP, 1996).

B. 女性作家紹介

1. Ama Ata Aidoo (アマ・アタ・エドゥ)

1942年、ガーナ（当時ゴールドコースト）のファンティ人として生まれる。イギリスによって投獄され、拷問を受けたうえ殺された祖父と、首長として活躍した父親をもち、アフリカの植民の歴史と、伝統的な文化に対する強い意識とともに育った。1964年、ガーナ大学レゴン校を卒業。同年、処女作の *The Dilemma of a Ghost* をレゴンの学生劇場で上演して以来、短編集、小説、詩集などを発表し、多方面で活躍する。ガーナ大学での教職を初めとして、アメリカの研究機関での顧問、ガーナのローリンズ政権下での文部大臣などの要職を務める。現在、ジンバブエの首都ハラレで執筆活動を続けている。一児の母。

a. 作品

Anowa (1970)

親の反対を押し切って結婚したため不幸な結末を迎える娘を主人公とする、昔からある教訓物語をもとにした劇作品。アフリカ文学全体のなかでも評価の高い作品である。物語の時代は、ガーナがイギリスの植民地支配下に置かれる19世紀に設定されており、植民をめぐり男女の権力関係が大きなテーマとなっている。主人公である娘は、親にさからってみずから結婚相手を選ぶ、意志の強い自立した女として登場する。だが、彼女の反対にもかかわらず、夫が奴隷商売をし、それに成功するにつれ、二人の力関係は変化し、彼女は精神を病むようになる。ついに、奴隷商売の成功の陰に隠された夫の性的不能が明らかになったとき、夫は自殺、彼女は狂死し、物語は幕を閉じる。

オダムティン (Odamtten) の分析により、作品の歴史的な背景——イギリスが、ガーナの民族対立を利用して、植民地化を成功させたプロセス——が年代のうえで正確に特定されたのは、作品研究史における大きな収穫であった。植民の権力関係を男女の権力関係と合わせた上での、歴史的なさらなる分析が待たれる。

Our Sister Killjoy: Or Reflections from a Black-Eyed Squint (1977)

エドゥの作品中、もっとも実験的な形式と言語表現でもって書かれた作品。主人公は若いガーナの女で、ヨーロッパでの研修旅行中、アフリカに対して無知なヨーロッパの人々や、アフリカの現実を見ようとしないヨーロッパ在住のアフリカ人らと知り合いながら、過去の植民地支配、現在も続く新植民地主義のシステム、アフリカの矛盾などに対して、過剰なまでに敏感に意識させられる。印象的なシーンが、主人公がドイツの街を散策しているとき突然、「黒人の女!」という少女の声を耳にし、みずからの他者性を認識するという場面である。いうまでもなくこれは、フランツ・ファノンの『黒い皮膚、白い仮面』で描かれる体験と重なるものである。

また、あまり論じられていないが問題を含むのが、主人公がドイツ人の主婦と結ぶ同性愛的な関係である。今後、セクシュアリティと人種についての精緻な理論による分析が必要である。

Changes: A Love Story (1991)

上の2作品の説明から明らかなように、エドゥは他の女性作家とは違って、男女の問題よりむしろ植民地主義の問題をつきつめる傾向にあり、かつてのインタビューで、植民地主義がいまだ深刻である現在、「アクラ（ガーナの首都）の恋する二人については書けない」（Interview, *African*, 17）と語っていた。*Changes*はそのエドゥが、まさにアクラの恋人を扱った作品で、彼女の政治意識が変化したことがうかがえる。ここでは、主人公の女が経験する離婚、再婚こそが政治の場として表象されている。現代的なエリートである主人公は、祖母とも、母とも、友人とも違う新しい生き方を求め、妻子もちの男と再婚して伝統的な一夫多妻制の形を借りながら、それによって得られる自由を満喫する。しかし結局、伝統と近代を重ねることができずに、結婚生活は破綻する。

興味深い点は、主人公だけでなく、さまざまな社会階層、宗教、民族の女たちの結婚が描かれ、現代アフリカの権力構造の複層性が、明確に書き分けられていることである。特に、一夫多妻制をイデオロギーの面から分析した論文は、社会科学の分野でも少なく、それが宗教、階級、民族、教育などの差異と交差させられ、多くの問題を提示している。意外なほどまだ分析が進んでいない作品で、今後の批評が注目される。

b. 批評

エドゥについての批評は、大きく3つの方向からなされている。言語と形式、フェミニズム、アフリカのアイデンティティー、である。形式の面からの批評としては、伝統的な口承文学とのつながりを論じたものや、作品の言語分析などがある（例えば、Arlene Elder〈アーレーン・エルダー〉、Mildred A. Hill-Lubin〈ミルドレッド・A・ヒル＝ルービン〉など）。フェミニズムからの批評は、エドゥのラディカルな言語を、既存の秩序を攪乱するフェミニストの戦略であると位置づけ、エドゥは、主流のフェミニズムの白人中心主義に対し、アフリカの女の視点から挑戦していると考察する（例えば、Sara Chetin〈サラ・チェティン〉、Chimalum Nwanko〈チマルム・ンワンコ〉、Kofi Owusu〈コフィ・オウス〉、Caroline Rooney〈キャロライン・ルーニー〉など）。アフリカのアイデンティティーについて論じたものでは、ディアスポラの経験に焦点を当てたものが多い（例えば、Kwaku-Larbi Korang〈クウェク＝ラルビ・コラン〉、Gay Wilentz〈ゲイ・ウィレンツ〉など）。オダムティン（Odamatten）の研究書 *The Art of Ama Ata Aidoo: Polylectics and Reading Against Neocolonialism* は、研究書としては唯一の単行本であるが、そのタイトルが示すとおり、エドゥの作品を構成する多様な声をひとつの方向に収斂させることを避け、それぞれの作品を歴史的なコンテクストに置きながら、多重性を可能にしたエドゥの作品分析を試みる。とくに二章で行われた *Anowa* の歴史的背景の分析は、見事である。

2. Zaynab Alkali (ザイナブ・アルカリ)

作家を多く輩出するナイジェリアのなかでも珍しい、北部イスラム圏出身の作家。1950年、ナイジェリア、ボルノ州の、トゥラ＝ワジラ地域で生まれる。アーマドゥ・ベロ大学ザイラ校、バイエロ大学カノ校を卒業。ナイジェリア各大学で教職に就く。父親は40代の頃にキリスト教徒に改宗するが、アルカリ本人は1960年代初期にイスラム教徒となり、キリスト教とイスラム教の両方の影響を受ける。夫との間に6人の子供がいる。

a. 作品

The Stillborn (1984)

ナイジェリア北部の村の娘の、結婚、別離、自己実現、夫との和解といった人生が、彼女の幼なじみたちの人生と織り合わさって語られる。物語の最後に、主人公が将来、家族の中心である女主人となることが暗示され、彼女の果敢な人生の描写と合わさって、西アフリカのイスラム文化独特の女の位置が表象されている。

物語の大きなテーマのひとつが、移民、そして都市と村落の問題である。大方のこの種の物語とは違って、主人公は一度だけでなく、何度か町と村の間を行き来し、村は次第に町と変わらなくなっていく。また、物語の最後に、主人公は夫の住む町へ戻ろうと決意するが、都市への移住が家族の伝統への回帰を表すことになり、都市＝近代化／村落＝伝統という二項対立が、女の視点から崩されている。

b. 批評

アルカリについての批評は、まだ数少ない。ウメー (Umeh) は、アルカリをンワパ (Nwapa) のあとを継ぐ作家の一人に数え、さらにウーマニスト (アフリカに視点を置いたフェミニスト) の作家のリストに加えている。今後、アルカリと他のナイジェリア人作家とを比較することで、これまで注目されなかった北部の視点を入れた、より全体的なナイジェリア文学の像を形成する手助けになろう。また、西アフリカのイスラム圏の女性作家との比較も重要であり、それによって、これまで英語圏、フランス語圏という壁に阻まれてきた地域研究も生まれてくるのではないだろうか。

3. Mariama Bâ (マリアマ・バー)

1929年、セネガルのウォロフ人として生まれる。早くに母親をなくし、母方の祖父母に育てられ、イスラムの伝統的な教育とヨーロッパ流の学校教育の両方を受ける。高校時代、セネガルの教育について書いた小品を発表。卒業後は、小学校教師、のちに地方の教育官として働いただけでなく、9人の子供を育てながら、女性運動や教育運動にも深くかかわった。このように多忙をきわめたため、本格的な作品を発表したのは、実に51歳になってからであったが、それは野間賞受賞という栄誉を彼女にもたらした。アフリカの女性作家が国際的な賞をとったのはこれが初めてのことであった。だがその翌年、1981年に早過ぎる死を迎え、二作目は死後出版されている。

a. 作品

Une si longue lettre (1980)

中年の女が夫の喪に服している間、これまでの人生を振り返って、昔からの親友にあてて手紙を書くという、書簡体小説の形をとっている。熱烈な恋愛結婚、第二妻をめとるという夫の裏切り、にもかかわらず離婚をせずに義理の家族とも付き合い、子供たちを育て、仕事もこなすというその後の暮らし、夫の死、などが、友人に打ち明ける親密な調子で内面から描かれる。友人自身も夫に裏切られたが、離婚し、現在は役人として海外で暮らしている。小説は、そこまでラディカルではない方の女を中心にするので、一般的な中産階級の女の心情を十分に描くことに成功している。

以上、粗筋だけ追えば、単純なフェミニスト小説のように読めるが、ウォロフ社会独特の伝統的なカーストと、教育程度の差から生じる新しい階級との関係、イスラム社会の女性差別と、母系制のウォロフ社会の家族意識との関係が重なり合っており、描かれる権力関係は決して単純ではない。

b. 批評

野間賞受賞により、バーは、英語圏中心のアフリカ女性文学界のなかで例外的に注目を浴びたフランス語圏の作家であるだけでなく、バーのおかげで、他のフランス語圏の女性作家も読まれるようになったといっても過言ではない。初期の批評は、セネガル本国のジャーナリストや研究者によってなされた短い記事やインタビューなどで、多くは、伝記的な事実や作品の紹介などに費やされた。本格的な批評のほとんどは、アフリカのフェミニスト作家という視点から、バーを論じている。社会的、文化的な背景から作品を論じたものとしては、数少ないなかから Mbye Cham (ムビエ・チャム) の論文を挙げたい。また、Siga Fatima Jagne (シガ・ファティマ・ジャグネ) によるバーの解説は、解説にとどまらないほど文化的側面を丁寧にまとめてあり、有益である。ジャグネが述べるように、今後は、同じく女に焦点を当てるにしても、セネガルの伝統的な女の語り部の伝統とのか

かわりを論じるような、より文化的、社会的な文脈に即した研究が待たれる。

4. Tsitsi Dangarembga (ツィツィ・ダンガレムバ)

1959年、植民地時代のローデシア（現ジンバブエ）に、シヨナ人として生まれる。2歳から6歳までをイギリスで過ごす。1977年、ケンブリッジで薬学を学ぶためふたたび渡英するが、3年で帰国。ほどなくして祖国が独立を果たす。しばらく働いたのち、ふたたび、今度はジンバブエ大学に入学し、心理学を学ぶ。独立直後の民族回帰の時期、母語の口承芸術の伝統に目覚め、アフリカ人作家の作品を読みふけり、大学の演劇部で劇を執筆、監督する。作家としては、事実上の処女作の *Nervous Conditions* がコモンウェルス作家賞を受けたことで、一気に注目を集めた。現在は映画にたずさわっている。

a. 作品

Nervous Conditions (1988)

Nervous Conditions は、タイトルを、フランツ・ファノンの『地に呪われたるもの』の前書きを書いたサルトルの言葉からとっている。このことからわかるように、*Nervous Conditions* は、植民地主義という病的な状況に精神をむしばまれる少女と、それを生き延びるもう一人の少女の物語である。語り手の少女は、学校に通うため、町に住む金持ちの叔父の家に寄宿する。そこで、5年間イギリスに住んだ結果すっかり欧米化された従姉に会い、彼女からさまざまな新しい見方を学ぶ。だが従姉は、アフリカの文化とヨーロッパの文化とを統合しようとしてできず、拒食症になり、最後は精神病院に入ってしまう。病んでいく従姉をとおして、階級の矛盾、家父長制の矛盾、植民地主義の矛盾が、きわめて鋭く表象され、それが少女の成長物語として語られるところに、この小説の力がある。

b. 批評

アフリカの少女の成長の物語として、*Nervous Conditions* は、すでに揺るぎない地位を築いているとあってよく、それゆえ本稿でも、ダンガレムバの主要作品はこれ1作のみであるにもかかわらず彼女を取り上げた。批評のほとんどは、フェミニスト的な問題意識と植民地主義の議論を交差させたものである。例えば Sue Thomas (スー・トマス) は、ファノンの理論にジェンダーの視点から修正を迫るものとして、*Nervous Conditions* を読み解く。また Sally McWilliams (サリー・マックウィリアムズ) は、ホミ・バーバの模倣の理論を借りながら、*Nervous Conditions* は、女の主体も植民地主義の主体も社会によって構築されるものだと明らかにしていると論じる。これ以外の視点からの研究としては、Etienne Galle (エティエンヌ・ギャル) による、ダンガレムバの英語とシヨナ語についての論文を挙げたい。

5. Assia Djebar (アッシア・ジェバー、本名 Fatima Zohra Imalayen ファティマ・ゾーラ・イマライエン)

男女を問わず北アフリカでもっとも有名な作家の一人であるジェバーは、1936年、アルジェリアに生まれた。家はイスラム教徒だったが、父親がフランス植民地政府の学校で教えていたため、ジェバーはフランス流の教育を受けることになった。彼女は学校で優秀な成績を修め、1955年には、最初アルジェリアの女として、フランスのセブルの高等師範学校に入学した。卒業以来、チュニジア、アルジェリアで教鞭をとりながら、小説、短編小説、詩、演劇、映画などの創作活動にたずさわる一方で、評論、映画評、翻訳なども手がける。80年代初期に移住して以来現在まで、パリのアルジェリア文化センターの研究員を勤めながら、執筆活動を続けている。1958年、レジスタンスのメンバーと結婚、二人の子供をもうける。その後離婚し、1980年には詩人と再婚している。

a. 作品

Les femmes d'Alger dans leur appartement (1980)

1959年から78年にかけて書かれた6つの短編小説を集めたもの。ジェバーのフランス語文学作家としてのターニングポイントとなった作品でもあり、マグレブ文学全体にとっての記念碑的な作品でもある。植民地時代の過去と、独立後の現在を並べながら、独立後もなお閉じ込められているアルジェリアの女を描き、フェミニズムがはたしてアルジェリアの状況を変え得たのかを問うている。

L'Amour, la fantasia (1985)

4部作の第1作目。1830年のアルジェリア征服から1954年～62年の独立戦争までのアルジェリアの植民の歴史を、女の声で語りなおす物語。その歴史意識は、つねに傑作として高く評価されてきた。語り手の母親が住む都会の共同体の女たちと、山地の農民の女たちの集団の歴史が、口承の歴史として再現され、さらにそれが、語り手の個人的な歴史と重なり合わされて、物語を織り成している。

Vaste est la prison (1995)

Ombre sultane (1987)、*Loin de Médine* (1991) に続く4部作の第4作目。自伝的な色彩の濃いこの作品は、ジェバーのこれまでの創作活動の総決算といえるものである。語り手はみずからの人生を子供時代からたどり、それが、語り手の女の先祖や親戚たちの歴史と織り合わせられる。さらに、歴史上の人物も登場する。物語の最後に、1994年に暗殺されたジャーナリストについて語られ、現在のアルジェリアに蔓延する恐怖と死を訴える。

b. 批評

ジェバーは国際的に高い評価を受けており、ポストコロニアリズム、歴史、政治、フェミニズム、言語などの面から分析されている。その作品は数カ国語に訳され、とくに英訳をとおして欧米で広く読まれているが、残念なことに政治的な理由により、本国でアラビア語に訳されたものはひとつもない。

ジェバーがフランス語で書くことは、議論を呼んできた。例えば、アルジェリア独立後に発表されたリアリズム小説は、内容的には好意的に受け入れられたが、独立後になお、国語であるアラビア語ではなくフランス語で書いていることに対し、強く非難する批評家もいた。ジェバーの言語について書かれた代表的な論文は、Mildred Mortimer (ミルドレッド・モーティマー)、Adlai Murdoch (アドライ・マードック)、Clarisse Zimra (クラリス・ツィムラ) のものなどがある。

ジェバーの歴史意識については、数多くの論文が書かれている。ジェバーは、歴史を描くことで女の過去を取り戻し、同時に現在のアルジェリアの社会を批判するが、その手法は4部作において遺憾なく発揮されているとされる。ジェバーの歴史意識については、Mary Jean Green (マリー・ジーン・グリーン)、Danielle Marx-Scouras (ダニエル・マルク＝スクラ)、Andrea Page (アンドレア・ページ)、Marie-Blanche Tahon (マリー＝ブランシュ・タオン) らが論じている。

ジェバーの強いフェミニスト意識は、多くの賞賛を受けている。*La Nouba des femmes du Mont Chenoua* は、1979年のヴェネチア映画祭で国際批評家賞を受賞したが、本国アルジェリアのテレビで上演されると、あまりにも「フェミニスト的」だとして批判された。ジェバーのフェミニスト的な面を分析したものとしては、Rafika Merini (ラフィカ・メリニ)、Mildred Mortimer (ミルドレッド・モーティマー)、Clarisse Zimra (クラリス・ツィムラ) らの研究がある。

6. Buchi Emecheta (ブチ・エメチェタ)

1944年、ナイジェリアのラゴスでイボ人の両親のもとに生まれる。高校を出たあと結婚し、1962年、夫に続いて渡英。人種差別的な社会環境も手伝って夫との生活が破綻してからは、母子家庭で5人の子供を育てるかたわら、社会学の学士号、修士号を取得。同時に執筆活動も行い、何社からも拒否されたすえ、1972年に処女作を発

表。以降継続して作品を発表しつづけ、79年に発表した *The Joys of Motherhood* で世界的に認められる。イギリス、ナイジェリアの大学で教鞭をとり、国際的な作家会議でも講演するなど活躍している。現在もロンドンに住み、時々ナイジェリアに里帰りしてインスピレーションを受けながら、創作活動を続けている。

a. 作品

The Joys of Motherhood (1979)

エメチェタの出世作。エメチェタは、初期の自伝的な作品のあと、アフリカの過去に取材し、女の抑圧の歴史を掘り起こした。これはなかでももっとも深みのある作品で、植民地時代から独立期を舞台に、近代化から取り残された母親の悲劇的な一生を描いている。この小説が高く評価されている理由は、それまで男の視点からしか描かれなかった植民地化と近代化を、女の視点から、しかも近代化の主人公である男をつねに支える存在であった母親の視点から、きわめてリアリスティックに描いているためである。主人公は、村の伝統的な価値観、つまり、母親であることによって女は社会的な意味と位置を得るのだ、という価値観でもって育つ。ところが結婚を期に、彼女は首都に移住する。近代的な新しい環境では、母親であることが女の地位を保障するどころか、女の社会参加を阻むようになっていく。にもかかわらず、主人公は、母親であることだけに生きる価値を見出し、最後には子供のだれにも看取られず、独り死ぬ。

Double Yoke (1982)

The Joys of Motherhood のあと、エメチェタは、現代のアフリカに目を向けるようになる。*Destination Biafra* (1982) でナイジェリアの内戦を描いたあと、*Double Yoke* では、大学生の娘を主人公に、現代のアフリカの女が直面する問題——伝統的な価値観に従い家庭を守らなければならないのと同時に、教育を受けたからには男に劣らぬ働きもしなければならない、という「二重の束縛」——を描く。主人公の娘は、単位を取るために教授と関係を持ち、妊娠してしまう。だが彼女は、大きなおなかのまま堂々と学業を続け、最初は彼女をふしだらな女だとして非難していたボーイフレンドも、最後には彼女を受け入れる。タイトルの“Double Yoke”というフレーズが、現代のアフリカの女の苦境を端的に表しているとして、当時ひんぱんに引かれた。

Kehinde (1994)

初期の作品と同様、最近の2作品では、エメチェタは、現代のイギリスの移民社会を舞台に、移民のアイデンティティの問題を描いている。*Gwendolen* (1989) の主人公はジャマイカ移民の少女、*Kehinde* の主人公はナイジェリア移民の女である。彼女は、夫と何年もイギリスで過ごしているが、ナイジェリアの好景気に引かれて帰国を決意する。夫はナイジェリアで第二夫人までめとり、家族の中心として君臨するが、主人公はナイジェリアの大家族の生活になじめず、イギリスに戻り、そこを自分の故郷として選びなおす。

イギリスの黒人女性文学も、最近ジャンルとして成立しつつあり、今後エメチェタをその側面から論じることも必要となろう。

b. 批評

エメチェタの批評の初期のもの、つまり80年代のものは、ほとんどが彼女のフェミニスト的な視点を、「抑圧されたアフリカの女の真の声」として評価するものだった。そして逆に、少数ではあるが、アフリカ中心主義をとる批評家からは、エメチェタはヨーロッパかぶれの裏切り者であるという非難を受けてきた。前者の代表例が、Katherine Frank (キャサリン・フランク) を筆頭として、Nancy Bazin (ナンシー・ベイジン)、ウメー (Umeh) らであり、後者の代表例がオグニエミ (Ogunyemi) らである。例外的に Rolf Solberg (ロルフ・ソルバーグ) が、エメチェタがアフリカの伝統に対して抱く敬意と、アフリカの家父長制に対して行う批判の両義性を、指摘していた。だが90年代になると、Cynthia Ward (シンシア・ワード) のように、この両極の批評はアフリカフェミニズムの根本的な対立を反映している、という見方も登場する。またフィッシュバーン (Fishburn) は、アフリカ文化に反対するフェミニスト的な抗議の声ばかりが強調されていた、それまでの西

洋的な視点からのエメチェタ研究に修正を加え、植民地主義に対するアフリカ人としての抗議の声を読み取り、二つの抗議の声音がいかにか複雑に絡んでいるかを分析した。フェミニスト批評の先陣を切っていたウメーも、90年代になると、エメチェタのアフリカ的な側面にも焦点を当てて論じているようである。また近年、イギリスの黒人移民作家としてエメチェタを位置づける研究も、少しずつ見られるようになってきた。

7. Bessie Head (ベッシー・ヘッド)

ヘッドの人生は、1990年に出版された評論集のタイトルを借りれば、まさに「悲劇的な人生」だった。1937年、アパルトヘイト下の南アフリカ、白人の母親とその家の使用人である黒人の父親との間に、母親が収容されていた精神病院で生まれた。「カラード」の育ての親のもとで成長し、ヘッドが自分の出生をめぐる事実を知らされたのは、寄宿舎に入れられた13歳のときだった。そのときすでに、母親は精神病院で自殺していた。学校を卒業後、しばらく教師として働いたあと、ジャーナリストになり、同じくジャーナリストの夫とともに、政治活動を行う。夫と別れたあと、1964年、息子を連れてベチアナランド（現ボツワナ）に亡命。亡命後は、やはり教師として働きながら記事を書く。ボツワナ独立後は、1969年に精神をわずらって以来、入退院を繰り返しながらも実験農場にかかわり、文筆活動を続ける。1983年、早過ぎる死を迎える。

a. 作品

A Question of Power (1973)

きわめて自伝的な要素の濃い作品。主人公はヘッドと同様、南アフリカからボツワナに亡命し、息子を育てながら実験農場にかかわる。圧巻は、アパルトヘイト下での人種差別、ボツワナの村人からの民族差別、アフリカ社会の女性差別などの矛盾により、精神を病む主人公の心の闘いの軌跡を、内側から描いた部分である。物語の最後に、主人公は、土地と結びつくことによって癒される。

このように、社会の矛盾を個人的な視点に限定して表象した作品は、アフリカ文学では類を見ない。ここには、他の作家に見られる、伝統的な共同体のつながりといったものは皆無で、主人公は社会から疎外され、ひたすら内に向く。にもかかわらず、このきわめて特殊な作品がアフリカ文学研究で高く評価されたのは、アフリカが抱える矛盾を鋭くえぐっていたからであろう。

その他のヘッドの作品で有名なものは多いが、多く邦訳が出ているので、そちらの解説を参考にされたい。

b. 批評

第I部の注でも触れたとおり、ヘッドは他の女性作家に比べ、例外的に早くから評価された作家である。たとえば、1986年という早い時期、そしてさらなる研究の発展を反映して1992年にも、文献目録が出版されている。もちろん彼女の作品を読めば、ジェンダーの視点は明らかであり、フェミニズム批評も多くされているが、彼女を他の女性作家とは別格の、キラ星のごとき地位においてきたのは、ジェンダーよりもむしろ、人種、土地、国家といった面からの関心だったといえる。またその独特の作品世界ゆえに、彼女の作品世界を受け継いだ作家が見当たらず、他の女性作家と有機的に結びつけて女性文学の伝統のなかで論じるのが難しいこともあって、女性文学研究において、幸か不幸か別枠で扱われてきた感がある。今後、ヘッドをアフリカ女性文学のなかで適切に評価していくことが課題であろうし、それによってアフリカ女性文学研究も、より豊かになっていくに違いない。

ヘッドを精神分析の視点から研究した論文は、Roger Berber (ロジャー・バーバー)、Elaine Campbell (エレヌ・キャンベル)、Patrick Colin Hogan (パトリック・コリン・ホーガン)、Modupe O. Olaogun (モドゥペ・O・オラオグン)、Jacqueline Rose (ジャクリン・ローズ) など数多い。また、土地と国家の問題については、Françoise Lionnet (フランソワーズ・リオネ)、V. S. Menager-Everson (V・S・メナジャー＝エバーソン)、Maxine Sample (マクシン・サンプル) らが論じている。フェミニスト的な視点からの研究では、Ifeyinwa Grace Achufusi (イフェインワ・グレイス・アチュフシ)、Nancy Bazin (ナンシー・ベイジン)、Sara Chetin (サ

ラ・チェティン)などが挙げられよう。

8. Flora Nwapa (フローラ・ンワパ)

黒人アフリカ女性作家で、最初に国際的な評価を受けた作家として名高い。1931年、ナイジェリアのイボ人として生まれる。祖父母、両親、ともに大商人で、地域の尊敬を受けていた名門の出身である。ンワパ自身もエリートで、ナイジェリアのイバダン大学、およびエジンバラ大学を卒業。高校教師、大学の事務官、各省庁の役人を勤めるだけでなく、みずから出版社を設立して活躍する。夫との間に3人の子供を持つ。1993年、没する。

a. 作品

Efuru (1966)

ンワパの処女作だが、アフリカ女性作家の第一声として、彼女の作品のなかでもっとも高い評価を受けている。植民地時代の田舎を舞台にして、主人公の女と村人たち、とくに村の女たちとの関係が、日常の細かな描写とともに描かれる。主人公は、生まれも立派で、勤勉で、皆の尊敬を受けるが、子供に恵まれない。そのこともあってか、夫は家庭を顧みず、主人公は夫と別れる。物語の最後は、二人目の夫とも別れた主人公が、安らかに眠りながら、湖の女神——女に富を与えるが子供は与えないといわれる——の夢を見る場面で終わる。2作目の *Idu* (1970) も同様に、植民地時代の田舎を舞台にしている。

One is Enough (1992)

3作目以降、ンワパは作風を変え、現代のアフリカの都市を舞台にして、直截的な言葉で女の自立について語るようになる。*One is Enough* は、そんなンワパの後期の代表作である。主人公は、子供に恵まれないため夫と不仲になり、単身、都会に出る。そこで体を武器に商売に大成功し、ついには子供まで授かる。だが彼女は、子供の父親と結婚は望まず、「独りで十分」として独り身を貫く。男性作家が、女が都会へ出るのを否定的に描いてきたなか、身を売るといふ問題のあるやり方にしろ、都会で成功し、幸せをつかんだ女を描くことで、大きな問題提起をした作品である。

b. 批評

ンワパの初期の批評は、西洋のフェミニズムの枠組みで、女の自立を強調するものが多かった。その意味では同国人のエメチェタに対する評価と似ているが、エメチェタの徹底的な抗議に比べ、ンワパの抗議はあいまいで、したがって評価も低かったといえる。しかし90年代になると、ンワパは、アフリカの伝統的な女の文化を発見した、アフリカ女性文学の母であるとする批評が、大半を占めるようになる。その先陣を切ったのが、Susan Andrade (スーザン・アンドレイド) である。また95年、ンワパの死を悼んで *Research in African Literatures* がンワパの特集を組むが、そのなかでンナエメカ (Nnaemeka)、オグニェミ (Ogunyemi)、ウメー (Umeh) などは、ンワパの分析をとおして、アフリカ独自のフェミニズムを模索している。とくに上述の *Efuru* における女神像は、アフリカの伝統文化における女の尊厳の象徴として、一種のアーキタイプになりつつある。

まだンワパの全体像をとらえた研究はなく、今後、現在高く評価されている初期の作品を、現代のアフリカを舞台にした後期の作品と関連づけながら、ンワパのフェミニスト意識の展開を探る必要があるだろう。

9. Grace Ogot (グレイス・オゴト)

1930年、ケニアのルオ人として生まれる。55年から59年にかけて、ウガンダとイギリスで看護婦と助産婦としての勉強をしたのち、ラジオのアナウンサー、航空会社の広報部、などさまざまな仕事に就く。そのかわり、60年代前半から執筆活動を続け、ケニア作家協会の初代会長を務めるなどして活躍。80年代には、国会議員、さらには副大臣として取り立てられ、女性の権利拡大のために努めている。83年に母語で書くことを宣言して以

来、母語で創作活動をしている。

a. 作品

The Promised Land (1966)

植民地時代を舞台にした、若い夫婦の移住の物語。土地を切望する夫は、妻の反対をおしきって、ケニアからタンガニーカ（現タンザニア）に移住し、成功する。が、地元住民の反感を買い、のろいをかけられ、夫は病に侵され、妻は夫を引きずるようにしてもとの村へ帰る。処女作にしてすでに、オゴトをはじめとする東アフリカ作家の重要なテーマである、土地、移住の問題、そして社会の内部に潜む悪意、その発露であるマジックが複雑に重ねられており、それがさらに男女の権力関係と結びつけられている。

b. 批評

今回取り上げた女性作家のなかで、もっとも忘れられた存在だといえる。1990年に出版された女性作家インタビュー集でも、「公務に忙殺されていて」連絡が取れなかったという理由で収録されていないし、パレク（Parekh）とジャグネ（Jagne）の作家紹介でも取り上げられていない。したがって、この解説を書くにも非常に苦労させられたほどだ。

だが、上の作品紹介でも触れたとおり、とくに土地意識と絡んだ国家や民族の問題が、きわめてサイコロジカルな表象をされているという点で、もっと注目されてしかるべき作家であろう。最近の研究で、ヘッドと比較したものがあがるが、上の論点はヘッドにも共通するものであり、今後の比較研究の発展が期待される。

II. 文献紹介

A. 本稿作成にあたり参考にした文献の目録

I-Aの女性文学研究史を書くにあたって主に参考にしたのは、以下の3点である。

Brown, Lloyd W. "Introduction" and "The Woman's Voice in African Literature." *Women Writers in Black Africa*. Contributions in Women's Studies 21. Westport, CO: Greenwood, 1981. 3-13, 14-34.

Davies, Carole Boyce. "Introduction: Feminist Consciousness and African Literary Criticism." *Ngambika: Studies of Women in African Literature*. Eds. Carole Boyce Davies and Anne Adams Graves. Trenton, NJ: Africa World, 1986. 1-23.

Davies, Carole Boyce, and Elaine Savory Fido. "African Women Writers: Toward a Literary History." *A History of Twentieth-Century African Literatures*. Ed. Oyekan Owomoyela. Lincoln: U of Nebraska P, 1993. 311-46.

I-Bの作家の紹介における事実関係は、以下の研究書の記述による。

Bruner, Charlotte H., ed. *The Heinemann Book of African Women's Writing*. Heinemann African Writers Ser. Oxford: Heinemann, 1993. 作家紹介の部分

———, ed. *Unwinding Threads: Writing by Women in Africa*. Heinemann African Writers Ser. 256. Oxford: Heinemann, 1983. 作家紹介の部分

James, Adeola, ed. *In Their Own Voices: African Women Writers Talk*. Studies in African Literature. London: Currey, 1991. 作家紹介の部分

Parekh, Pushpa Naidu, and Siga Fatima Jagne, eds. *Postcolonial African Writers: A Bio-Bibliographical Critical Sourcebook*. Westport, CO: Greenwood, 1998.

II の文献目録を作成するにあたって参考にしたのは、以下の文献およびデータベースである。

Azodo, Ada Uzoamaka. "Issues in African Feminism." *Women's Studies Quarterly* 25. 3-4 (1997): 201-7. (シラバス)

Berrian, Brenda. *Bibliography of African Women Writers and Journalists: Ancient Egypt-1984*. Washington, D.C.: Three Continents, 1985.

———. "An Update: Bibliography of Twelve African Women Writers." *Research in African Literatures* 19(1988): 206-31.

Bullwinkle, David A. *African Women: A General Bibliography, 1976-1985*. African Special Bibliographic Ser. 9. New York: Greenwood, 1989.

———. *Women of Northern, Western, and Central Africa: A Bibliography, 1976-1985*. African Special Bibliographic Ser. 10. New York: Greenwood, 1989.

———. *Women of Eastern and Southern Africa: A Bibliography, 1976-1985*. African Special Bibliographic Ser. 11. New York: Greenwood, 1989.

UnCover. Online. CARL. Jan. 1998.

COPAC (Consortium of University Research Libraries). Online. Jan. 1998.

LC MARC: Books All. Online. U.S. Library of Congress Information System. Jan. 1998.

MELVYL. Online. University of California, California Digital. Jan. 1998.

MLA International Bibliography of Books and Articles on the Modern Languages and Literatures. *MLA International Bibliography*. CD-ROM. Silver Platter. Aug. 1998.

Nnaemeka, Obioma. "Black Women Writers." *Women's Studies Quarterly* 25. 3-4 (1997): 208-24. (シラバス)

Scheven, Yvette, ed. *Bibliographies for African Studies 1987-1993*. London: Hans Zell, 1994.

参考までに、より広い範囲でのアフリカ女性研究のためには、以下の文献目録が参考になると思われる。

Africa Bibliography. Yearly.

Current Bibliography on African Affairs. Quarterly.

International African Bibliography. Quarterly.

Studies on Women Abstracts. Bimonthly.

WIN (Women's International Network) News. Quarterly.

Women Studies Abstracts. Quarterly.

とくに Diane M. Duesterhoeft がまとめた "Special Periodical Issues about African Women, 1972-1991."

Current Bibliography on African Affairs 24.1 (1992-3): 1-52 は、さまざまな分野にわたる雑誌のアフリカ女性研究特集号を目次細目まで挙げており、有益である。

B. 女性文学研究に関する文献目録

African Literature Today 15 (1987). Special issue on Women in African Literature Today.

Aidoo, Ama Ata. "To Be an African Woman Writer: An Overview and a Detail." *Criticism and Ideology: Second African Writers Conference, Stockholm 1986*. Ed. Kirsten Holst Petersen. Uppsala, Sweden: Scandinavian Inst. of African Studies, 1988. 155-72.

Adebayo, Aduke, ed. *Feminism and Black Women's Creative Writing: Theory, Practice, and Criticism*. Ibadan,

- Nigeria: AMD, 1996.
- Adewale, Toyin, and Omowunmi Segun, eds. *Breaking the Silence: An Anthology of Short Stories By the Women Writers of Nigeria*. 1996. 2nd ed. Lagos, Nigeria: The Women Writers of Nigeria, 1998.
- African Literature Today* 15 (1987). Special Issue on Women Writers.
- Bell, Roseann P. "The Absence of the African Woman Writer." *CLA Journal* 21.4 (1978): 496.
- Bell, Roseann P., Bettye J. Parker, and Beverly Guy-Sheftall, eds. *Sturdy Black Bridges: Visions of Black Women in Literature*. Garden City: Anchor, 1979.
- Berrian, Brenda, comp. "An Update: Bibliography of Twelve African Women Writers." *Research in African Literatures* 19 (1988): 206–31.
- , comp. *Bibliography of African Women Writers and Journalists: Ancient Egypt—1984*. Washington D.C.: Three Continent, 1985.
- Brown, Lloyd. *Women Writers in Black Africa*. Contributions in Women's Studies 21. Westport, CO: Greenwood, 1981.
- Brown, Susan, Isabel Hofmeyer, and Susan Rosenberg, eds. *Lips from Southern African Women*. Johannesburg, South Africa: Ravan, 1983.
- Bruner, H. Charlotte, ed. *The Heinemann Book of African Women's Writing*. African Writers Ser. Oxford: Heinemann, 1993.
- , ed. *Unwinding Threads: Writing by Women in Africa*. African Writers Ser. 256. Oxford: Heinemann, 1983.
- Busby, Margaret, ed. *Daughters of Africa: An International Anthology of Words and Writings by Women of African Descent from the Ancient Egyptian to the Present*. London: Cape, 1992.
- Cartey, Wilfred. *Whispers from a Continent*. New York: Random, 1969.
- Chukukere, Gloria Chineze. *Gender Voices and Choices: Redefining Women in Contemporary African Fiction*. Enugu, Nigeria: Fourth Dimension, 1995.
- Chukwuma, Helen, ed. *Feminism in African Literature: Essays on Criticism*. Enugu, Nigeria: New Generation, 1994.
- Clayton, Cherry, ed. *Women and Writing in South Africa: A Critical Anthology*. Marshalltown, South Africa: Heinemann Southern Africa, 1989.
- Cobham, Rhonda. "Introduction." *Research in African Literatures* 19 (1988): 137–42.
- Condé, Maryse. "Three Female Writers in Modern African Fiction: Flora Nwapa, Ama Ata Aidoo and Grace Ogot." *Présence Africaine* 82.2 (1972): 132–43.
- Davies, Carole Boyce. *Black Women, Writing and Identity: Migrations of the Subject*. London and New York: Routledge, 1994.
- . "Introduction: Feminist Consciousness and African Literary Criticism." Davies and Graves 1–23.
- . *Moving Beyond Boundaries: Black Women's Diasporas*. Vol. 2. New York: New York UP, 1995.
- Davies, Carole Boyce, and Elaine Savory Fido. "African Women Writers: Toward a Literary History." A *History of Twentieth-Century African Literatures*. Ed. Oyekan Owomoyela. Lincoln: U of Nebraska P, 1993.
- Davies, Carole Boyce, and Anne Adams Graves, eds. *Ngambika: Studies of Women in African Literature*. Trenton, NJ: Africa World, 1986.
- Davies, Carole Boyce, and Omolara Ogundipe-Leslie, eds. *Moving Beyond Boundaries: International Dimensions of*

- Black Women's Writing*. Vol. 1. New York: New York UP, 1995.
- Daymond, M. J., ed. *South African Feminisms: Writing, Theory, and Criticism, 1990–1994*. Gender and Genre in Literature. New York: Garland, 1996.
- DeShazer, Mary K. *A Poetics of Resistance: Women Writing in El Salvador, South Africa, and the United States*. Ann Arbor: U of Michigan P, 1994.
- Egejuru, Phaniel Akubueze, and Ketu H. Katrak, eds. *Nwanyibu: Womanbeing and African Literature*. Annual Selected Papers of the ALA (African Literature Association)1. Trenton, NJ: Africa World, 1997.
- Eke, Maureen N. *From the Heart: Women and Liberation in New Writings by Black South African Women*. East Lansing: Michigan State U, 1993.
- Holloway, Karla F. C. *Moorings and Metaphors: Figures of Culture and Gender in Black Women's Literature*. New Brunswick, NJ: Rutgers UP, 1992.
- James, Adeola, ed. *In Their Own Voices: African Women Writers Talk*. Studies in African Literature. London: Currey; Portsmouth, NH: Heinemann, 1990.
- Kolawole, Mary E. Modupe. *Womanism and African Consciousness*. Trenton, NJ: Africa World, 1997.
- 楠瀬佳子『南アフリカを読む——文学・女性・社会』第三書館 1994年
- 楠瀬佳子、山田裕康編訳 バッシー・ヘッド、グシナ・ムシヨーベほか著『女が集まる——南アフリカに生きる』現代企画室 1990年
- Little, Kenneth. *The Sociology of Urban Women's Image in African Literature*. London: Macmillan, 1980.
- Mabuza, Lindiwe. *One Never Knows: An Anthology of Black South African Women Writers in Exile*. Braamfontein: Skotaville, 1989.
- Mutiso, G. C. M. "Women in African Literature." *East Africa Journal* 3.3 (1971): 4–14. Rpt. in *Socio-Political Thought in African Literature*. London: Macmillan, 1974.
- Nasta, Susheila, ed. *Motherlands: Black Women's Writing from Africa, the Caribbean and South Asia*. London: Women's, 1991.
- Newell, Stephanie, ed. *Writing African Women: Gender, Popular Culture and Literature in West Africa*. London: Zed, 1997.
- Nfah-Abbenyi, Juliana Makuchi. *Gender in African Women's Writing: Identity, Sexuality, and Difference*. Bloomington: Indiana UP, 1997.
- Nnaemeka, Obioma, ed. *Sisterhood, Feminisms and Power: From Africa to the Diaspora*. Trenton, NJ: Africa World, 1998.
- , ed. *The Politics of (M)othering: Womanhood, Identity, and Resistance in African Literature*. London and New York: Routledge, 1997.
- Ogundipe-Leslie, Omolara. "African Women, Culture and Another Development." Ogundipe-Leslie, *Re-Creating* 21–41.
- . "The Female Writer and her Commitment." *African Literature Today* 15 (1987): 5–13. Rpt. in Ogundipe-Leslie, *Re-Creating* 57–67. An earlier version of this appeared in *The Guardian* (Lagos) 21 Dec. 1983.
- . *Re-Creating Ourselves: African Women and Critical Transformations*. Trenton, NJ: Africa World, 1994.
- Ogunyemi, Chikwenye O. *Africa Wo/Man Palava: Nigerian Novel by Women*. Women in Culture and Society. Chicago: U of Chicago P, 1996.
- . "Womanism: The Dynamics of the Contemporary Black Female Novel in English." *Signs* 11.1 (1985):

- 63–80. Rpt. in *Revising the Word and the World: Essays in Feminist Literary Criticism*. Ed. Veve A. Clark, Ruth-Ellen B. Joeres and Madelon Sprengnether. Chicago: U of Chicago, 1993.
- Otokunefor, Henrietta C., and Obiageli C. Nwodo, eds. *Nigerian Female Writers: A Critical Perspective*. Lagos, Nigeria: Malthouse, 1989.
- Parekh, Pushpa Naidu, and Siga Fatima Jagne, eds. *Postcolonial African Writers: A Bio-Bibliographical Critical Sourcebook*. Westport, CO: Greenwood, 1998. (女性作家の項目をいくつか含む。第II部の文献目録の相互引証参照のこと。)
- Research in African Literatures* 19.2 (1988). Special Issue on Women Writers.
- Research in African Literatures* 25.3 (1994). Special Issue on Women as Oral Artists.
- Research in African Literatures* 26.2 (1995). Special Issue on Flora Nwapa.
- Research in African Literatures* 28.2 (1997). Special Issue on Autobiography and African Literature. (女性文学研究論文をいくつか含む)
- Schipper, Mineke, ed. *Unheard Words: Women and Literature in Africa, the Arab World, Asia, the Caribbean, and Latin America*. Trans. Barbara Potter Fasting. London: Allison, 1985.
- Shoga, Yinka. "Women Writers and African Literature." *Afriscopes* 3.10 (1973): 44–5.
- Sircar, Roopali. *The Twice Colonised: Women in African Literature*. Creative New Literature Ser. 3. New Delhi: Creative, 1995.
- Steady, Filomina Chioma, ed. *The Black Woman Cross-Culturally*. Cambridge, MA: Schenkman, 1981.
- Stratton, Florence. *Contemporary African Literature and the Politics of Gender*. New York and London: Routledge, 1994.
- . "The Shallow Grave: Archetypes of Female Experience in African Fiction." *Research in African Literatures* 19.2 (1988): 143–69.
- Taiwo, Oladele. *Female Novelists of Modern Africa*. London: Macmillan, 1984.
- Terborg-Penn, Rosalyn and Andrea Bonton Rushing, eds. *Women in Africa and the African Diaspora: A Reader*. 1987. 2nd ed. Washington, D.C.: Howard UP, 1996.
- Vanden Driesen, Cynthia. *Centering the Margins: Perspectives on Literatures in English from India, Africa, Australia*. New Delhi: Prestige, 1995.
- Wilentz, Gay. *Binding Cultures: Black Women Writers in Africa and the Diaspora*. Blacks in the Diaspora. Bloomington: Indiana UP, 1992.
- Wisker, Gina, ed. *Black Women's Writing*. Insights. New York: St. Martin's, 1993.
- Woodhull, Winifred. *Transfigurations of the Maghreb: Feminism, Decolonization, and Literatures*. Minneapolis: U of Minnesota P, 1993.

C. 女性作家の作品および研究論文目録

1. Ama Ata Aidoo

a. Works by Ama Ata Aidoo

(1) Works of Fiction

- The Dilemma of a Ghost*. London: Longmans and Green, 1965. New York: Collier-Macmillan, 1971. (play)
- "Story-Telling in an African Village." *The New African* (1966 Oct.): 166. (short story)
- "Cut Me a Drink." *Modern African Stories*. Ed. Ellis Komey and Ezekiel Mphahlele. London: Faber, 1968.

13-9. (short story)

“Satisfaction?” *University of Cape Coast English Department Workpapers* 2 (1972): 2-12. (short story)

Anowa. London: Longmans and Green, 1970. Washington D.C.: Three Continents, 1979. (play)

No Sweetness Here. London: Longman, 1970. New York: Doubleday, 1971. (short stories)

上田光子訳「この世にやさしさはない」土屋哲編訳『現代アフリカ文学短編集』鷹書房 1977年 151-81頁

Our Sister Killjoy: Or Reflections from a Black-Eyed Squint. London: Longman, 1977. New York: NOK, 1979. (novel)

The Dilemma of a Ghost and Anowa. Harlow, U.K.: Longman, 1985. (play)

Someone Talking to Sometime. Harare, Zimbabwe: College, 1985. (poetry)

The Eagle and the Chickens and Other Stories. Enugu, Nigeria: Tana, 1987. (short stories)

Birds and Other Poems. Harare, Zimbabwe: College, 1987. (poetry)

Changes: A Love Story. New York: The Feminist Press at The City University of New York, 1991. (novel)

An Angry Letter in January. Coventry, U.K.: Dangaroo, 1992.

“THESE DAYS [III]-A Letter to Flora Nwapa.” *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 17-21. (poem)

(2) Essays

“The African Poet, His Critics and His Future.” *Legonite* (1964): 57-9.

“Thank You Mr. Howe.” *Transition* 6.29 (1967): 5-6. (letter)

“No Saviors.” *New African* 52 (1969): 37-9. Rpt. in *African Writers on African Writing*. Ed. G. D. Killam. New York: Africana, 1973. 14-8.

Introduction. *The Beautiful Ones Are Not Yet Born*. By Ayi K. Armah. New York: Collier-Macmillan, 1969. i-iv.

“Commitment.” *University of Cape Coast English Department Workpapers* 1 (1971): 10-4.

”Roundtable Discussion.” First African Literature Association Conference, Northwestern U, Evanston, Illinois. *Issue* 6.1 (1976): 124-7.

“Images of Women.” Woman and Work in Africa Symposium 6, U of Illinois, Urbana, 29 April 1979. (speech)

“Unwelcome Pals and Decorative Slaves: The Women as a Writer in Modern Africa.” *Medium and Message*.

Proc. of the International Conference on African Literature and the English Language, U of Calabar, Nigeria, 1980. 17-37. Rpt. in *AFA: Journal of Creative Writing* (Imo, Nigeria) (1 Nov. 1982): 34-43.

“To Be A Woman.” *Sisterhood is Global*. Ed. Robin Morgan. New York: Doubleday, 1984. 258-65.

“The Girl Who Can.” *Ms* (1985 Mar.): 99-101

“Sisterhood is Global.” *Essence* (1985 Mar.): 12+.

“To Be an African Woman Writer: An Overview and a Detail.” *Criticism and Ideology: Second African Writers Conference, Stockholm 1986*. Ed. Kirsten Holst Petersen. Uppsala, Sweden: Scandinavian Inst. of African Studies, 1988. 155-72.

“— for Kinna VII.” *West Africa* (6-12 Mar. 1989): 357.

“Nowhere Cool.” *Callaloo* 13.1 (1990): 62-70.

“Whom Do We Thank for Women’s Conferences?” *Ms* (1991 Jan.-Feb.): 96.

“Literature, Feminism and the African Woman Today.” *Reconstructing Womanhood, Reconstructing Feminism: Writings on Black Women*. Ed. Delia Jarrett-Macauley. London and New York: Routledge, 1996. 156-

74.

“The African Woman Today.” Nnaemeka, *Sisterhood* 39–50.

The Power of the Word: Culture, Censorship, and Voice. Co-author with Meredith Tax, Marjorie Agosin, Ritu Menon, Ninotchka Rosca, and Mariella Sala. New York: Women’s World, 1997.

(3) Interviews

“An Interview with Ama Ata Aidoo.” *Cultural Events in Africa* 35 (1967): i–iv.

Interview. *African Writers Talking*. Ed. Dennis Duerden and Cosma Pieterse. New York: Africana, 1972. 18–27

“Ama Ata Aidoo.” James 8–27.

“We Were Feminists in Africa First.” By Adewale Maja-Pearce. *Index on Censorship* 19: 9 (1990): 17–8.

“Public Affairs, Politics, and the Destinies of People: An Interview with Ama Ata Aidoo.” *World Literature Written in English* 32.2–33.1 (1992–1993): 12–21.

“‘A New Tail to an Old Tale’: An Interview with Ama Ata Aidoo.” *Novel* 26.3 (1993): 297–308.

“An Interview with Ama Ata Aidoo.” *Massachusetts Review* 36.1 (1995): 123–33.

(4) Others

Reading of the short story, “The Late Bud,” from *No Sweetness Here* (1970). Audiotape. First Person Feminine, Radio Ser., Iowa State U, Ames, Iowa. III.

b. Works on Ama Ata Aidoo

Berrian, Brenda. “The Afro-American West African Marriage Question: Its Literary and Historical Contexts.” *African Literature Today* 15 (1987): 152–9.

Booth, James. “Sexual Politics in the Fiction of Ama Ata Aidoo.” *Commonwealth Essays and Studies* 15.2 (1993): 80–96.

Chetin, Sara. “Reading from a Distance: Ama Ata Aidoo’s *Our Sister Killjoy*.” *Wisker* 146–59.

———. “Rereading and Rewriting African Women: Ama Ata Aidoo and Bessie Head.” *DAI* 53 (1992): 808 A. U of Kent.

Coussy, Denise. “Is Life Sweet? The Short Stories of Ama Ata Aidoo.” *Short Fiction in the New Literatures in English: Proceedings of the Nice Conference of the European Association for Commonwealth Literature and Language Studies*. Ed. Jacqueline Bardolph. Nice : Fac. des Lettres & Sciences Humaines de Nice, 1989. 285–90.

Dunton, Chris. “‘Wheyting Be Dat?’: The Treatment of Homosexuality in African Literature.” *Research in African Literatures* 20.3 (1989): 422–48.

Eko, Ebele. “Beyond the Myth of Confrontation: A Comparative Study of African and African-American Female Protagonists.” *ARIEL* 17.4 (1986): 139–52.

Elder, Arlene. “Ama Ata Aidoo and the Oral Tradition: A Paradox of Form and Substance.” *African Literature Today* 15 (1987): 109–18.

Gourdine, Angeletta Kim Marie. “Bridging the Middle Passage: Reading and (R)reading Diasporic Politics in Alice Walker’s *Possessing the Secret of Joy* and Ama Ata Aidoo’s *Changes*.” *DAI* 55 (1995): 3841 A. Michigan State U.

Hill Lubin, Mildred A. “The Storyteller and the Audience in the Works of Ama Ata Aidoo.” *Neohelicon* 16.2 (1989): 221–245.

- Hoeller, Hildegard. "Ama Ata Aidoo." Parekh and Jagne 32–9.
- Innes, C. L. "Mothers or Sisters? Identity, Discourse and Audience in the Writing of Ama Ata Aidoo and Mariama Ba." *Nasta* 129–51.
- Katrak, Ketu H. Afterword. *No Sweetness Here and Other Stories* By Ama Ata Aidoo. New York : Feminist, City Univ. of New York, 1995. 135–60.
- Korang, Kwaku Larbi. "Ama Ata Aidoo's Voyage Out: Mapping the Coordinates of Modernity and African Selfhood in *Our Sister Killjoy*." *Kunapipi* 14.3 (1992): 50–61.
- MacKenzie, Clayton G. "The Discourse of Sweetness in Ama Ata Aidoo's *No Sweetness Here*." *Studies in Short Fiction* 32.2 (1995): 161–70.
- Nwankwo, Chimalum. "The Feminist Impulse and Social Realism in Ama Ata Aidoo's *No Sweetness Here and Our Sister Killjoy*." Davies and Graves 151–9.
- Odamtten, Vincent O[kpoti]. *The Art of Ama Ata Aidoo: Polylectics and Reading Against Neocolonialism*. Gainesville: UP of Florida, 1994.
- . "The Developing Art of Ama Ata Aidoo." *DAI* 50(1989): 1303 A. State U of New York, Stony Brook.
- Ogede, Ode. "The Defense of Culture in Ama Ata Aidoo's *No Sweetness Here*: The Use of Orality as a Textual Strategy." *International Fiction Review* 21.1–2 (1994): 76–84.
- Opara, Chioma. "Clothing as Iconography: Examples of Bà, Aidoo, and Emecheta." Adebayo 110–25.
- . "Narrative Technique and the Politics of Gender: Ama Ata Aidoo's *Our Sister Killjoy* and *No Sweetness Here*." Newell 137–46.
- Opoku-Agyemang, Kwadwo. "A Crisis of Balance: The (Mis)Representation of Colonial History and the Slave Experience as Themes in Modern African Literature." *Nationalism vs. Internationalism: (Inter)National Dimensions of Literatures in English*. Ed. Wolfgang Zach and Ken L. Goodwin. Studies in English and Comparative Literature. Tübingen, Germany: Stauffenberg, 1996. 219–28.
- Owusu, Kofi. "Canons under Siege: Blackness, Femeness, and Ama Ata Aidoo's *Our Sister Killjoy*." *Callaloo* 13.2 (1990): 341–63.
- . "Fictionalizing as Fiction-Analyzing: A Study of Select 'Critical' Fiction by Ayi Kwei Armah, Wole Soyinka, Ama Ata Aidoo and Chinua Achebe." *DAI* 50 (1990): 3584 A. U of Alberta, Canada.
- Phillips, Maggi. "Engaging Dreams: Alternative Perspectives on Flora Nwapa, Buchi Emecheta, Ama Ata Aidoo, Bessie Head, and Tsitsi Dangarembga's Writing." *Research in African Literatures* 25.4 (1994): 89–103.
- Ramirez, Victoria Ann. "Writing Is But a Different Name for Conversation': Dialogism, Narrator, and Narratee in Sterne's *Tristram Shandy*, Aidoo's *Our Sister Killjoy*, and Pynchon's *Gravity's Rainbow*." *DAI* 58 (1997): 1702 A. State U of New York, Binghamton.
- Rooney, Caroline. "Are We in the Company of Feminists? A Preface for Bessie Head and Ama Ata Aidoo." *Diverse Voices*. Ed. Harriet Devine Jump. New York: St. Martin's, 1991. 214–47.
- . "'Dangerous Knowledge' and the Poetics of Survival: A Reading of *Our Sister Killjoy* and *A Question of Power*." *Nasta* 99–126.
- Sackey, Edward. "Oral Tradition and the African Novel." *Modern Fiction Studies* 37.3 (1991): 389–407.
- Samantrai, Ranu. "Caught at the Confluence of History: Ama Ata Aidoo's Necessary Nationalism." *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 140–57.
- Utudjian, Elaine Saint Andre. "Ghana and Nigeria." *Post-Colonial English Drama: Commonwealth Drama since*

1960. Ed. Bruce King. New York: St. Martin's; London: Macmillan, 1992. 186–99.

Wilentz, Gay. "Ama Ata Aidoo: *The Dilemma of a Ghost*." Wilentz 38–57.

———. "The Politics of Exile: Ama Ata Aidoo's *Our Sister Killjoy*." *Studies in Twentieth Century Literature* 15.1 (1991): 159–73.

Willey, Elizabeth. "National Identities, Tradition, and Feminism: The Novels of Ama Ata Aidoo Read in the Context of the Works of Kwame Nkrumah." *Interventions: Feminist Dialogues on Third World Women's Literature and Film*. Ed. Bishnupriya Gosh and Brinda Bose. Garland Reference Library of the Humanities. New York: Garland, 1997. 3–30.

Wright, Derek. "Returning Voyagers: The Ghanaian Novel in the Nineties." *Journal of Modern African Studies* 34.1 (1996): 179–92.

2. Zaynab Alkali

a. Works by Zaynab Alkali

(1) Works of Fiction

The Stillborn. Harlow: Longman, 1984.

The Virtuous Woman. Ikeja, Nigeria: Longman, 1987.

"Salzlose Asche" (Saltless Ash), "Das eigene Leben" (The Survivor), and "Haua des Schreckens" (House of Horror). *Salzlose Asche: Kurzgeschichten aus Nigeria*. Ed. Lotta Suter. Zurich: Stechapfel Verlag, 1989.

"Haua des Schreckens" is rpt. in *A Voyage Around: Literatur aus Kamerun, Nigeria, Simbabwe*. Berlin: Andenbuch, 1990.

"The Nightmare." *Touchstone 15: African Women Write*. Ed. Guida Jackson. Houston: Touchstone, 1990.

"Saltless Ash." *Touchstone 15: African Women Write*. Ed. Guida Jackson. Houston: Touchstone, 1990. Rpt. in Bruner, Heinemann 26–33.

The Cobwebs. Forthcoming.

(2) Essays

"Feminism: A Radical Theme in West African Literature." *Touchstone 15: African Women Write*. Ed. Guida Jackson. Houston: Touchstone, 1990.

"Landlicher Markt in Nigeria." *NZZ-Folio* Oct. 1992: 71–3.

(3) Interviews

Interview. *Guardian* (Lagos, Nigeria) 27 Mar. 1985: 9.

"Important . . . But Not the Same." *West Africa* 11 July 1988.

"Women Writers Bag Top Fiction Prizes." By Emmanuel Ibeleme. *New African* 222 (Mar. 1989): 49.

"Zaynab Alkali." *James* 28–32.

b. Works on Zaynab Alkali

Galle, Etienne. "The Probable Young African Hero." *Commonwealth Essays and Studies* 15.2 (1992): 29–35.

Kassam, Margaret Hauwa. "Behind the Veil in Northern Nigeria: The Writing of Zaynab Alkali and Hauwa Ali." *Newell* 117–25.

Koroye, Seiyefa. "The Ascetic Feminist Vision of Zaynab Alkali." *Otokunefor and Nwodo* 47–51.

Loflin, Christine. "Zaynab Alkali." *Parekh and Jagne* 40–4

- Mojola, Ibiyemi. "The Onus of Womanhood: Mariama Bâ and Zaynab Alkali." *Newell* 126–36.
- Otiono, Nduka. "Colour Me Ba(r)d: Orality and the Feminist Question in Zaynab Alkali's *The Stillborn*." *Adebayo* 134–52.
- Udumukwu, Onyemaechi. "Post-Colonial Feminism: Zaynab Alkali's *The Stillborn*." *Literary Griot* 6.1 (1994): 47–60.
- Umeh, Marie. "Finale: Signifyin' the Griottes: Flora Nwapa's Legacy of (Re)Vision and Voice." *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 114–23.

3. Mariama Bâ

a. Works by Mariama Bâ

(1) Works of Fiction

- Une si longue lettre*. Dakar: Nouvelles Éditions Africaines, 1980.
- So Long a Letter*. Trans. Modupe Thomas. London: Heinemann, 1981.
- 中島弘二訳『かくも長き手紙』講談社 1981年
- Un chant écarlate*. Nouvelles Éditions Africaines, 1981.
- Scarlet Song*. Trans. Dorothy Blair. Essex: Longman, 1986.

(2) Interviews

- "The Long Road to Emancipation: Interview with Mariama Bâ." *Afrika* 12 (1980): 12.
- "Mariama Bâ, Winner of the First Noma Award for Publishing in Africa: An Interview." *African Book Publishing Record* 6.3–4 (1980): 209–14.

b. Works on Mariama Bâ

- AbuBakr, Rashidah Ismaili. "The Emergence of Mariama Bâ." *Essays on African Writing, I: A Re-evaluation*. Ed. Abdulrazak Gurnah. Oxford: Heinemann, 1993. 24–37.
- Boateng, Faustine Ama. "At the Crossroads: Adolescence in the Novels of Mariama Bâ, Aminata Sow Fall, Ken Bugul and Khadi Fall." *DAI* 56 (1995): 926 A. Howard U.
- Brown, Ella. "Reactions to Western Values as Reflected in African Novels." *Phylon* 48.3 (1987): 216–28.
- Busia, Abena P. B. "Rebellious Women: Fictional Biographies-Nawal el Sa'adawi's *Woman at Point Zero* and Mariama Bâ's *So Long a Letter*." *Nasta* 88–98.
- . "Words Whispered over Voids: A Context for Black Women's Rebellious Voices in the Novel of the African Diaspora." *Black Feminist Criticism and Critical Theory*. Ed. Joe Weixlmann and Houston A. Baker Jr. *Studies in Black American Literature* 3. Greenwood, FL: Penkevill, 1988. 1–41.
- Cham, Mbye B[aboucar]. "Contemporary Society and the Female Imagination: A Study of the Novels of Mariama Bâ." *African Literature Today* 15 (1987): 89–101.
- . "The Female Condition in Africa: A Literary Exploration by Mariama Bâ." *Current Bibliography on African Affairs* 17.1 (1984–1985): 29–52.
- . "Islam in Senegalese Literature and Film." *Faces of Islam in African Literature*. Ed. Kenneth Harrow. London: Currey, 1991. 163–86.
- Champagne, John. "'A Feminist Just Like Us?' Teaching Mariama Bâ's *So Long a Letter*." *College English* 58.1 (1996): 22–42.

- D'Almeida, Irene AssiBa. "The Concept of Choice in Mariama Bâ's Fiction." *Davies and Graves* 161–72.
- Derakhshesh, Derayeh. "Un Chant Écarlate: The Song of an Exile." *CLA Journal* 42.1 (1998): 91–102.
- Edson, Laurie. "Mariama Bâ and the Politics of the Family." *Studies in Twentieth Century Literature* 17.1 (1993): 13–25.
- Esonwanne, Uzo. "Enlightenment Epistemology and 'Aesthetic Cognition': Mariama Bâ's *So Long A Letter*." Nnaemeka, *Politics* 82–100.
- Fetzer, Glenn W. "Women's Search for Voice and the Problem of Knowing in the Novels of Mariama Bâ." *College Language Association Journal* 35.1 (1991): 31–41.
- Flewellen, Elinor C. "Assertiveness vs. Submissiveness in Selected Works by African Women Writers." *Ba Shiru* 12.2 (1985): 3–18.
- Gavioli, Davida. "In Search of the Mother's Lost Voice: Mariama Bâ's *Une si longue lettre*, Francesca Sanvitale's *Madre e figlia*, and Amy Tan's *The Joy Luck Club*." *DAI* 55 (1994): 1552 A–53 A. Pennsylvania State U.
- Grimes, Dorothy. "Mariama Bâ's *So Long a Letter* and Alice Walker's *In Search of Our Mothers' Gardens*: A Senegalese and an African American Perspective on 'Womanism.'" *Global Perspectives on Teaching Literature: Shared Visions and Distinctive Visions*. Ed. Sandra Ward Lott, Maureen S. G. Hawkins and Norman McMillan. Urbana, IL: National Council of Teachers of English, 1993. 65–76.
- Innes, C. L. "Mothers or Sisters? Identity, Discourse and Audience in the Writing of Ama Ata Aidoo and Mariama Bâ." *Nasta* 129–51.
- Irlam, Shaun. "Mariama Bâ's *Une si longue lettre*: The Vocation of Memory and the Space of Writing." *Research in African Literatures* 29.2 (1998): 76–93.
- Jackson, Kathy Dunn. "The Epistolary Text: A Voice of Affirmation and Liberation in *So Long a Letter* and *The Color Purple*." *The Griot* 12.2 (1993): 13–20.
- Jagne, Siga Fatima. "African Women and the Category 'Woman': Through the Works of Mariama Bâ and Bessie Head." *DAI* 55 (1995): 3837 A. State U of New York, Binghamton.
- . "Mariama Bâ." Parekh and Jagne 59–74.
- Kemp, Yakini. "Romantic Love and the Individual in Novels by Mariama Bâ, Buchi Emecheta and Bessie Head." *Obsidian II* 3.3 (1988): 1–16.
- King, Adele. "The Personal and the Political in the Work of Mariama Bâ." *Studies in Twentieth Century Literature* 18.2 (1994): 177–88.
- Larrier, Renée. "Reconstructing Motherhood: Francophone African Women Autobiographers." Nnaemeka, *Politics* 192–204.
- McElaney-Johnson, Ann. "The Place of the Woman or the Woman Displaced in Mariama Bâ's *Une si longue lettre*." *College Language Association Journal* 37.1 (1993): 19–28.
- Makward, Edris. "Marriage, Tradition and Woman's Pursuit of Happiness in the Novels of Mariama Bâ." *Davies and Graves* 271–81.
- Miller, Elinor S. "Two Faces of the Exotic: Mariama Bâ's *Un chant écarlate*." *French Literature Series* 13 (1986): 144–7.
- Miller, Mary-Katherine Fleming. "(Re)production of Self: Colonialism, Infanticide, and Autobiography in the Works of Mariama Bâ, Aminata Sow Fall, and Marguerite Duras." *DAI* 53 (1993): 3896 A. Yale U.
- Mojola, Ibiyemi. "The Onus of Womanhood: Mariama Bâ and Zaynab Alkali." *Newell* 126–36.

- Mortimer, Mildred. "Enclosure/Disclosure in Mariama Bâ's *Une si longue lettre*." *The French Review* 64.1 (1990): 69–78.
- Nnaemeka, Obioma. "Mariama Bâ: Parallels, Convergence and Interior Space." *Feminist Issues* 10.1 (1990): 13–35.
- . "UrBan Spaces, Women's Places: Polygamy as Sign in Mariama Bâ's Novels." Nnaemeka, *Politics* 162–91.
- Nwachukwu-AgBada, J. O. J. "'One Wife Be for One Man': Mariama Ba's Doctrine for Matrimony." *Modern Fiction Studies* 37.3 (1991): 561–73.
- Okhamafe, E. Imafedia. "The Ramatoulaye-Aissatou Styles in Contemporary African Feminism(s): Homages to A. T. Tymieniecka." *Phenomenology and Aesthetics: Approaches to Comparative Literature and the Other Arts*. Ed. Marlies Kronegger. Analecta Husserliana 32. Dordrecht: Kluwer Acadrmy under Auspices of World Institution for Advanced Phenomenological Research & Learning, 1991. 131–48.
- Oko, Emelia. "Eros, Psyche, and Society: Narrative Continuity in Mariama Bâ's *So Long a Letter* and *Scarlet Song*." *Adebayo* 168–77.
- Opara, Chioma. "Clothing as Iconography: Examples of Bâ, Aidoo, and Emecheta." *Adebayo* 110–25.
- . "The Emergence of the Female Self: The Liberating Pen in Mariama Bâ's *Une si longue lettre* and Sembene Ousmane's 'Lettres de France.'" *Adebayo* 153–67.
- Picanco, Luciano. "A Letter Form as Self-Construction: A Reading of Mariama Bâ's *So Long a Letter*." *Tropos* 22.1 (1996): 29–36.
- Plant, Deborah G. "Mythic Dimensions in the Novels of Mariama Bâ." *Research in African Literatures* 27.2 (1996): 102–11.
- Reyes, Angelita [Dianne]. "Crossing the Bridge: The Great Mother in Selected Novels of Toni Morrison, Paule Marshall, Simone Schwarz-Bart, and Mariama Bâ." *DAI* 46 (1985): 1618 A. U of Iowa.
- . "The Epistolary Voice and Voices of Indigenous Feminism in Mariama Bâ's *Une si longue lettre*." *Davies, Moving* 195–217.
- Riesz, Janos. "Mariama Bâ's *Une si longue lettre*: An Erziehungsroman." *Research in African Literatures* 22.1 (1991): 27–42.
- Rueschmann, Eva. "Female Self-Definition and the African Community in Mariama Bâ's Epistolary Novel *So Long a Letter*." *International Women's Writing: New Landscapes of Identity*. Ed. Anne E Brown and Marjanne E. Gooze. Contributions in Women's Studies 147. Westport, CT: Greenwood, 1995. 3–18.
- Sarvan, Charles Ponnuthurai. "Feminism and African Fiction: The Novels of Mariama Bâ." *Modern Fiction Studies* 34.3 (1988): 453–64.
- Shevlin, Eleanor F. "Cartographic Refrains and Postcolonial Terrains: Mariama Bâ's *Scarlet Song*." *Meddelanden fran Strindbergssallskapet* 43.4 (1997): 933–62.
- Slomski, Genevieve. "Dialogue in the Discourse: A Study of Revolt in Selected Fiction by African Women." *DAI* 47 (1986): 1721 A. Indiana U.
- Staunton, Cheryl Antoinette. "Three Senegalese Women Novelists: A Study of Temporal/Spatial Structures." *DAI* 47 (1986): 528 A
- Staunton, Cheryl Wall. "Mariama Bâ: Pioneer Senegalese Woman Novelist." *College Language Association Journal* 37.3 (1994): 328–35.
- Stratton, Florence. "'Literature as a Weapon': The Novels of Mariama Bâ." *Stratton* 133–55.

- . “The Shallow Grave: Archetypes of Female Experience in African Fiction.” *Research in African Literatures* 19.2 (1988): 143–69.
- Stringer, Susan. “Cultural Conflict in the Novels of Two African Writers, Mariama Ba and Aminata Sow Fall.” *SAGE* 5.Supp (1988): 36–41. The George Washington U.
- Treiber, Jeanette. “The Construction of Identity and Representation of Gender in Four African Novels.” *DAI* 53 (1992): 1909 A–10 A. U of California, Davis.
- . “Feminism and Identity Politics: Mariama Bâ’s *Un chant écarlate*.” *Research in African Literatures* 27.4 (1996): 109–23.
- Walker, Keith L. “Postscripts: Mariama Bâ, Epistolarity, Menopause, and Postcoloniality.” Green et al. 246–64.
- Wills, Dorothy Davis. “Economic Violence in Postcolonial Senegal: Noisy Silence in Novels by Mariama Bâ and Aminata Sow Fall.” *Violence, Silence, and Anger: Women’s Writing as Transgression*. Ed. Deirdre Lashgari. Feminist Issues: Practice, Politics, Theory. Charlottesville: UP of Virginia, 1995. 158–71.
- Yousaf, Nahem. “The ‘Public’ versus the ‘Private’ in Mariama Bâ’s Novels.” *The Journal of Commonwealth Literature* 30.2 (1995): 85–98.
- Zongo, Opportune Marie C. “Body Politics: Representing the Body in *Le Vieux Nègre et la Médaille*, *The Beautiful Ones Are Not Yet Born*, and *Une Si Longue Lettre*.” *DAI* 53 (1993): 2366 A–67 A. U of California, Santa Cruz.

4. Tsitsi Dangarembga

a. Works by Tsitsi Dangarembga

(1) Works of Fiction

- She No Longer Weeps*. Harare, ZimBabwe: College, 1987. (play)
- Nervous Conditions*. London: Women’s, 1988. (novel)
- Neria*. Dir. Godwin Mawuru. ZimBabwe, 1992. (film)

(2) Interviews

- “Women Write about the Things that Move Them’: A Conversation with Tsitsi Dangarembga.” *Matatu* 3.6 (1989): 101–8. Rpt. in *Moving beyond Boundaries, II: Black Women’s Diasporas*. Ed. Carole Boyce Davies. New York: New York UP, 1994. 27–31.
- “Tsitsi Dangarembga.” *Talking with African Writers: Interviews with African Poets, Playwrights and Novelists*. Ed. Jane Wilkinson. Studies in African Literature. London: Currey, 1992. 189–200.
- “An Interview with Tsitsi Dangarembga.” *Novel* 26.3 (1993): 309–19.
- “Between Gender, Race and History: Kirsten Holst Petersen Interviews Tsitsi Dangarembga.” *Kunapipi*.16.1 (1994): 345–8.
- “Interview with Tsitsi Dangarembga.” *African Literature Association Bulletin* 23.2 (1997): 11–6.

b. Works on Tsitsi Dangarembga

- Stummer, Peter O., and Balme Christopher, eds. *Fusion of Cultures? ASNEL Papers 2; Cross/Cultures 26*. Amsterdam, Netherlands; Atlanta, GA : Rodopi, 1996. (D. Dangarembga と G. Head の項のみ相互参照)
- Aegerter, Lindsay Pentolfe. “A Dialectic of Autonomy and Community: Tsitsi Dangarembga’s *Nervous*

- Conditions.*" *Tulsa Studies in Women's Literature* 15.2 (1996): 231–40.
- Bahri, Deepika. "Disembodying the Corpus: Postcolonial Pathology in Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions.*" *Postmodern Culture* 5.1 (1994): 26 paragraphs.
- Bardolph, Jacqueline. "'The Tears of Childhood' of Tsitsi Dangarembga." *Commonwealth Essays and Studies* 13.1 (1990): 37–47.
- Basu, Biman. "Trapped and Troping: Allegories of the Transnational Intellectual in Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions.*" *ARIEL*. 28.3 (1997): 7–24.
- Bosman, Brenda. "A Correspondence without Theory: Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions.*" *Current Writing* 2.1 (1990): 91–100.
- Burke, Timothy, and Deepika Bahri (rejoinder). "Response to Deepika Bahri's Essay, 'Disembodying the Corpus: Postcolonial Pathology in Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions.*'" *Postmodern Culture* 5.2 (1995): 8 paragraphs.
- Coundouriotis, Eleni. "Tsitsi Dangarembga." Parekh and Jagne 118–22.
- Creamer, Heidi. "An Apple for the Teacher? Femininity, Coloniality, and Food in *Nervous Conditions.*" *Kunapipi*.16.1 (1994): 349–60
- Flockemann, Miki. "'Not-Quite Insiders and Not-Quite Outsiders': The 'Process of Womanhood' in *Beka Lamb, Nervous Conditions* and *Daughters of the Twilight.*" *The Journal of Commonwealth Literature* 27.1 (1992): 37–47.
- Galle, Etienne. "Indigenous Embedments in Europhone African Literature." *Commonwealth Essays and Studies* 14.1 (1991): 16–20.
- Gorle, Gilian. "Fighting the Good Fight: What Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions* Says about Language and Power." *Yearbook of English Studies* 27 (1997): 179–92.
- Harting, Heike. "The Profusion of Meanings and the Female Experience of Colonisation: Inscriptions of the Body as Site of Difference in Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions* and Margaret Atwood's *The Edible Woman.*" Stummer and Christopher 237–46.
- Hill, Janice E. "Purging a Plate Full of Colonial History: The 'Nervous Conditions' of Silent Girls." *College Literature* 22.1 (1995): 78–90.
- Lederer, Mary Susan. "Becoming a Prophet: Representations of Madness in Bessie Head's Novels." *DAI* 57 (1996): 677 A. U of California, Los Angeles.
- McWilliams, Sally. "Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions*: At the Crossroads of Feminism and Post-Colonialism." *World Literature Written in English* 31.1 (1991): 103–12.
- Nair, Supriya. "Melancholic Women: The Intellectual Hysteric(s) in *Nervous Conditions.*" *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 130–9.
- Phillips, Maggi. "Engaging Dreams: Alternative Perspectives on Flora Nwapa, Buchi Emecheta, Ama Ata Aidoo, Bessie Head, and Tsitsi Dangarembga's Writing." *Research in African Literatures* 25.4 (1994): 89–103.
- Sugnet, Charles. "*Nervous Conditions*: Dangarembga's Feminist Reinvention of Fanon." Nnaemeka, *Politics* 33–49.
- Thomas, Sue. "Killing the Hysteric in the Colonized's House: Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions.*" *The Journal of Commonwealth Literature* 27.1 (1992): 26–36.
- Torti, Carola, Karin Kilb, and, Mark Stein. "Groping for Coherence: Patriarchal Constraints and Female

Resistance in Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions*." Stummer and Christopher 247–54.

Uwakweh, Pauline Ada. "Debunking Patriarchy: The Liberational Quality of Voicing in Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions*." *Research in African Literatures* 26.1 (1995): 75–84.

Vizzard, Michelle. "'Of Mimicry and Woman': Hysteria and Anticolonial Feminism in Tsitsi Dangarembga's *Nervous Conditions*." *SPAN* 36 (1993): 202–10.

5. Assia Djébar

a. Works by Assia Djébar

(1) Works of Fiction

La soif. Paris: Julliard, 1957.

Les impatients. Paris: Julliard, 1958.

Les enfants du nouveau monde. Paris: Julliard, 1962.

Les alouettes naïves. Paris: Julliard, 1967.

Poèmes pour l'Algérie heureuse. Algiers: SNED, 1969.

Rouge l'aube. Algiers: SNED, 1969 (1960). (play)

Les femmes d'Alger dans leur appartement. Paris: Éditions des Femmes, 1980. (short stories)

Women of Algiers in Their Apartment. Trans. Marjolijn de Jager. Charlottesville: UP of Virginia, 1992.

L'Amour, la fantasia. Paris: J. C. Lattes, 1985.

Fantasia: An Algerian Cavalcade. Trans. Dorothy S. Blair. London: Quartet, 1989.

Ombre sultane. Paris: J. C. Lattes, 1987.

A Sister to Scheherazade. Trans. Dorothy S. Blair. London: Quartet, 1987.

Loin de Médine. Paris: Albin Michel, 1991.

Far from Madina. Trans. Dorothy S. Blair. London: Quartet, 1994.

Vaste est la prison. Paris: Albin Michel, 1995.

Le blanc de l'Algérie. Paris: Albin Michel, 1995.

(2) Films

La Nouba des femmes du Mont Chenoua. 1979.

La Zerda et les chants de l'oubli. 1982.

(3) Essays

"A Noted Algerian Writer Presents Her Views of Muslim Women Today." *UNESCO Courier* Aug.–Sept. 1975: 23–25.

Chronique d'une été algérien. Paris: Éditions Plume, 1993. (essays and photographs)

Women of Islam. London: Deutsch, 1961.

(4) Interviews

"'When the Past Answers Our Present': Assia Djébar Talks about *Loin de Médine*." *Callaloo* 16.1 (1993): 116–31.

(5) Others

Translation with Assia Trabelsi and Preface. *Une voix de l'enfer*. By Nawal El Saadawi. Paris: Éditions des femmes, 1982.

b. Works on Assia Djébar

- Harrow, Kenneth W. ed. *The Marabout and the Muse: New Approaches to Islam in African Literature*. Studies in African Literature. Portsmouth, NH: Heinemann, 1996. (Djébar の項のみ相互参照)
- Abdel Jaouad, Hédi. "L'Amour, la fantasia: Autobiography as Fiction." *Revue Celfan/Celfan Review* 7.1-2 (1987-1988): 25-9.
- Accad, Evelyne. "Assia Djébar's Contribution to Arab Women's Literature: Rebellion, Maturity, Vision." *World Literature Today* 70.4 (1996): 801-12.
- Ahnouch, Fatima. "Assia Djébar: The Song of Writing." Trans. Pamela A. Genova. *World Literature Today* 70.4 (1996): 795-7.
- Ascarza Wegimont, Marie. "Djébar's *Ombre sultane*." *Explicator* 55.1 (1996): 55-7.
- Bensmaïa, Reda. "*La Nouba des femmes du Mont Chenoua*: Introduction to the Cinematic Fragment." Trans. Jennifer Curtiss Gage. *World Literature Today* 70.4 (1996): 877-84.
- Budig-Markin, Valerie. "Writing and Filming the Cries of Silence." *World Literature Today* 70.4 (1996): 893-904.
- Cooke, Miriam. "Arab Women Arab Wars." *Cultural Critique* 29 (1994-1995): 5-29.
- Dib, Mohammed. "Assia Djébar, or Eve in Her Garden." Trans. Pamela A. Genova. *World Literature Today* 70.4 (1996): 788.
- Dobie, Madeleine. "The Woman as Look and the Woman as Voice: Assia Djébar and Leïla Sebbar." *Constructions* 9 (1994): 89-105.
- Donadey, Anne. "Assia Djébar's Poetics of Subversion." *L'Esprit Créateur* 33.2 (1993): 107-17.
- . "Polyphonic and Palimpsestic Discourse in the Works of Assia Djébar and Leïla Sebbar." *DAI* 54 (1993): 1821 A. Northwestern U.
- . *Polyphonic and Palimpsestic Discourse in the Works of Assia Djébar and Leïla Sebbar*. Ann Arbor: Univ. Microfilms International. 1993.
- . "Rekindling the Vividness of the Past: Assia Djébar's Films and Fiction." *World Literature Today* 70.4 (1996): 885-92.
- Erickson, John. "Women's Space and Enabling Dialogue in Assia Djébar's *L'Amour, la fantasia*." Green et al 304-20.
- Faulkner, Rita A. "Assia Djébar, Frantz Fanon, Women, Veils, and Land." *World Literature Today* 70.4 (1996): 847-55.
- Frischmuth, Barbara. "A Letter to Assia Djébar." Trans. William Riggan. *World Literature Today* 70.4 (1996): 778-80.
- Gafaiti, Hafid. "The Blood of Writing: Assia Djébar's Unveiling of Women and History." *World Literature Today* 70.4 (1996): 813-22.
- Gass, William. "Encomium for Assia Djébar, 1996 Neustadt Prize Laureate." *World Literature Today* 70.4 (1996): 781-2.
- Geesey, Patricia. "Collective Autobiography: Algerian Women and History in Assia Djébar's *L'Amour, la fantasia*." *Dalhousie French Studies* 35 (1996): 153-67.
- . "Women's Words: Assia Djébar's *Loin de Médine*." Harrow 40-50.
- Ghaussy, Soheila. "A Stepmother Tongue: 'Feminine Writing' in Assia Djébar's *Fantasia*: An Algerian Cavalcade." *World Literature Today* 68.3 (1994): 457-62.
- Goodman, Joanna. "L'Écrit et le cri: Giving Voice in Assia Djébar's *L'Amour, la Fantasia*." *Edebiyat* 6.1 (1995):

1-19.

- Gracki, Katherine. "Writing Violence and the Violence of Writing in Assia Djébar's Algerian Quartet." *World Literature Today* 70.4 (1996): 835-43.
- Green, Mary Jean. "Dismantling the Colonizing Text: Anne Hebert's Kamouraska and Assia Djébar's *L'Amour, la fantasia*." *The French Review* 66.6 (1993): 959-66.
- Guyot Bender, Martine. "Harmony and Resistance in *L'Amour, la fantasia*'s Algerian Women's Communities." *Homemaking: Women Writers and the Politics and Poetics of Home*. Ed. Catherine Wiley and Fiona R. Barnes. Gender and Genre in Literature 8. New York: Garland, 1996. 175-99.
- Huughe, Laurence. "'Écrire comme un voile': The Problematics of the Gaze in the Work of Assia Djébar." Trans. Jennifer Curtiss Gage. *World Literature Today* 70.4 (1996): 867-76.
- Jager, Marjolijn de. "Translating Assia Djébar's *Femmes d'Alger dans leur appartement*: Listening for the Silence." *World Literature Today* 70.4 (1996): 856-8.
- Kelley, David. "Assia Djébar: Parallels and Paradoxes." *World Literature Today* 70.4 (1996): 844-6.
- Khodja, Soumya Ammar. "For Assia Djébar, Inspired by Her Book." Trans. Pamela A. Genova. *World Literature Today* 70.4 (1996): 793-4.
- Lang, George. "Jihad, Ijtihad, and Other Dialogical Wars in *La Mère du printemps*, *Le Harem politique*, and *Loin de Médine*." Harrow 1-22.
- Lauten, Kathryn M. "Discontinuous Continuities in Assia Djébar's *L'Amour la fantasia*." *Cincinnati Romance Review* 16 (1997): 101-8.
- . "Ex-hum(anize)/Re-hum(aniz)e: Disturbing Bodies in 'Post-Colonial' Francophone Literature and Film." *DAI* 58 (1997): 453 A. U of Michigan.
- Lee, Sonia. "Daughters of Hagar: Daughters of Muhammad." Harrow 51-61.
- Lionnet, Françoise. "'Logiques métisses': Cultural Appropriation and Postcolonial Representations." *College Literature* 19.3-20.1 (1992-1993): 100-20.
- Marx-Scouras, Danielle. "Muffled Screams/Stifled Voices." *Yale French Studies* 82 (1993): 172-82.
- Merini, Rafika. "The Subversion of the Culture of Voyeurism in the Works of Leila Sebbar and Assia Djébar: A Socio-Literary Study." *DAI* 53 (1993): 2804 A. State U of New York, Binghamton.
- . *Two Major Francophone Women Writers: Assia Djébar and Leila Sebbar*. Francophone Cultures and Literatures Ser. 5. New York: Lang, 1995.
- Mortimer, Mildred. *Assia Djébar*. Celfan Edition Monographs. Philadelphia: CELFAN Editions, 1988.
- . "Assia Djébar's Algerian Quartet: A Study in Fragmented Autobiography." *Research in African Literatures* 28.2 (1997): 102-17.
- . "Language and Space in the Fiction of Assia Djébar and Leila Sebbar." *Research in African Literatures* 19.3 (1988): 301-11.
- . "Reappropriating the Gaze in Assia Djébar's Fiction and Film." *World Literature Today* 70.4 (1996): 859-66.
- . "Women's Voice." *Journeys through the French African Novel*. Portsmouth, NH: Heinemann, 1990.
- Murdoch, [H.] Adlai. "Rewriting Writing: Identity, Exile and Renewal in Assia Djébar's *L'Amour, la fantasia*." *Yale French Studies* 83 (1993): 71-92.
- Nolin, Corinne M. "Intellectuels et pouvoir au Maghreb: Thématiques de l'exil et de la subversion." *DAI* 56 (1995): 956 A. Northwestern U.

- Orlando, Valerie Key. "Beyond Postcolonial Discourse: New Problematics of Feminine Identity in Contemporary Francophone Literature." *DAI* 57 (1997): 3931–2 A. Brown U.
- Page, Andrea. "Rape or Obscene Copulation?: Ambivalence and Complicity in Djébar's *L'Amour, la fantasia*." *Women in French Studies* 2 (1994): 42–54.
- Tahon, Marie-Blanche. "Women Novelists and Women in the Struggle for Algeria's National Liberation." *Research in African Literatures* 23.2 (1992): 39–51.
- Turk, Nada [Osman]. "Assia Djébar: Solitaire solidaire: Une étude de la lutte des Algériennes pour les libertés individuelles, dans l'œuvre romanesque d'Assia Djébar." *DAI* 49 (1988): 504 A. U of Colorado.
- Vogl, Mary B. "Assia Djébar." Parekh and Jagne 135–43.
- Woodhull, Winifred. "Algeria Unveiled." *Genders* 10 (1991): 112–31.
- . "Feminism and Islamic Tradition." *Studies in Twentieth-Century Literature* 17.1 (1993): 27–44.
- . *Transfigurations of the Maghreb: Feminism, Decolonization, and Literatures in French*. Minneapolis: U of Minnesota P, 1993.
- World Literature Today* 70.4 (1996). Special issue on Assia Djébar. Subtitled Assia Djébar: 1996 Neustadt International Prize for Literature. Ed. and Intro. Djelal Kadir.
- Zimra, Clarisse. "Disorienting the Subject in Djébar's *L'Amour, la fantasia*" *Another Look, Another Woman: Retranslations of French Feminism*. Ed. Lynne Huffer. Yale French Studies 87. Binghamton, NY: Vail Ballou, 1995. 149–70.
- . "Not So Far from Medina: Assia Djébar Charts Islam's 'Insupportable Feminist Revolution'" *World Literature Today* 70.4 (1996): 823–34.
- . "Writing Women: The Novels of Assia Djébar." *SubStance* 21.3 (1992): 68–84.

6. Buchi Emecheta

a. Works by Buchi Emecheta

(1) Works of Fiction

- In the Ditch*. London: Barrie, 1972. New York: Schocken, 1980.
- The Second-Class Citizen*. London: Allison; New York: Braziller, 1975.
- The Bride Price*. London: Allison; New York: Braziller, 1976.
- The Slave Girl*. London: Allison; New York: Braziller, 1977.
- The Joys of Motherhood*. London: Allison; New York: Braziller, 1979.
- "Nostalgia." *Africa Woman* 19 (1979): 30. (poetry)
- Titch the Cat*. With Alice Onwordi. London: Allison, 1979. (Children's Literature)
- Nowhere to Play*. London: Allison, 1979. (Children's Literature)
- The Moonlight Bride*. London: Oxford UP, 1980. New York: Braziller, 1983. (Juvenile Literature)
- The Wrestling Match*. London: Oxford UP, 1980. New York: Braziller, 1983. (Juvenile Literature)
- Naira Power*. London: Macmillan, 1982. (Juvenile Literature)
- Destination Biafra*. London: Allison; New York: Braziller, 1982.
- Double Yoke*. London: Ogwugwu Afor, 1982. New York: Braziller, 1983.
- The Rape of Shavi*. London: Ogwugwu Afor, 1983. New York: Braziller, 1985.
- Ada's Story (In the Ditch and Second-Class Citizen)*. London: Allison, 1983.

A Kind of Marriage. London: Macmillan, 1986. (Juvenile Literature)
Gwendolen. London: Collins, 1989. Rpt. as *The Family*. New York: Braziller, 1990.
Kehinde. London: Heinemann, 1994.

(2) **Performed Plays**

“A Kind of Marriage.” B.B.C. Radio and Television.
 “The Juju Landlord.” B.B.C. Radio.
 “Tanya, a Black Woman.” B.B.C. Radio.
 “Family Bargain.” B.B.C. Radio, 1987.

(3) **Autobiography**

The Head Above Water. London: Fontana, 1986.

(4) **Speeches**

“Building on Tradition: Can the Past Provide Direction for the Future?” Women and Work Symposium 6, University of Illinois, Urbana, 29 Apr. 1979.
 “Tradition vs Modernism in Nation Building.” Graduate School of Public and International Affairs, U of Pittsburgh, Pennsylvania, 3 May 1979.
 “The Problem that an African Novelist Faces in the Publishing World.” Department of Black Studies, U of Pittsburgh, Pennsylvania, 4 May 1979.
 “Discussion of *The Rape of Shavi*.” Workshop on Commonwealth Women Novelists, Commonwealth Inst., London, 7 Jan. 1984.
 “Speech for the Feminist Book Week.” Pimlico Library, London, 13 June 1984.

(5) **Essays**

“Buchi’s Social Column — Marriage Does It Pay?” *African Weekly Review* 20 Oct. 1967: 12.
 “Should HusBands Control a Wife’s Salary?” *African Weekly Review* 1.3 (1967): 8.
 “Mixed Marriage.” *African Weekly Review* 1.17 (1968): 13.
 “Introduction and Comments.” *Our Own Freedom*. With Maggie Murray. London: SheBa Feminist, 1981.
 Review of *Staying Power: This History of Black People in Britain*, by Peter Fryer. *New Society* 24 May 1984: 323.
 “Nigeria — the Woman as a Writer.” *Realities* spring 1985: 1+
 “African Women Step Out.” *New African* 1 Nov. 1985: 7–8.
 “Education: US.” *Women: A World Report*. New York: Oxford UP, 1985. 205–18.
 “Feminism with Small ‘f!’” *Criticism and Ideology: Second African Writers Conference, Stockholm, 1986*. Ed. Kirsten Holst Petersen. Uppsala, Sweden: Scandinavian Inst. of African Studies, 1988. 173–85.
 “Nwayi Oma, Biko Nodu Nma” (Beautiful woman, please farewell). *West Africa* 24–30 Oct. 1994:1831.

(6) **Autobiographical Essays**

“Out of the Ditch into Print.” *West Africa* 3 Apr. 1978: 669–72.
 “An African View of Church of England.” *West Africa* 24 Apr. 1978: 805–6.
 “The Human Race Decides to March through London.” *West Africa* 19 June 1978: 1177–80.
 “A Time Bomb.” *West Africa* 30 Oct. 1978: 2139–40.
 “Through West African Eyes.” *CMS Magazine* Oct.–Dec. 1978: 18–9.
 “Give Us This Day and Our Daily Bread.” *West Africa* 4 Dec. 1978: 2410–1.

- “Christmas Is for All.” *West Africa* 25 Dec. 1978: 2590–1.
- “Buchi Emecheta Goes Jogging.” *West Africa* 12 Mar. 1979: 444–5.
- “A Writer’s Day.” *New Fiction* 20 (1979): 119–20.
- “Another Fear of Flying.” *West Africa* 25 June 1979: 119–20.
- “Darry and Bouquet of Flowers.” *West Africa* 9 July 1979: 1215–6.
- “Language Difficulties.” *West Africa* 16 July 1979: 1215–6.
- “A Question of Dollars.” *West Africa* 30 July 1979: 1367–8.
- “US Longing for Roasted Yams.” *West Africa* 27 Aug. 1979: 1560–2.
- “US Police Convince Me I Am Lost.” *West Africa* 24 Sept. 1979: 1761–2.
- “What the Carol Singers Are Missing.” *West Africa* 24-31 Dec. 1979: 2385–6.
- “A Week of Ghana.” *West Africa* 13 Oct. 1980: 2015–6.
- “Calabar Contrasts and Complaints.” *West Africa* 12 Jan. 1981: 71–2.
- “Lagos Provides a Warm Welcome.” *West Africa* 19 Jan. 1981: 110+.
- “African Woman.” *Root* Aug. 1981: 22+
- “Simpler than Sociology.” *West Africa* 10 Aug. 1981: 1813–4.
- “Nigeria: Experiencing a Cultural Lag.” *West Africa* 2 Nov. 1981: 2582–3.
- “A Nigerian Writer Living in London.” *Kunapipi* 4.1 (1982): 114–23.
- “Women of Pittsburgh.” *Root* Feb. 1982: 14+
- “Black and a Woman.” *New Society* July 1984.

(7) Interviews

- “Two Faces of Emancipation.” *Africa Woman* Jan. 1976: 48–9.
- “Matchet’s Diary: Buchi Emecheta.” *West Africa* 6 Feb. 1978: 238–9.
- Interview. *West Africa* 3 Apr. 1978: 671.
- “A Worshipper from Afar.” *Punch* (Nigeria) 17 May 1979.
- “Buchi Emecheta: Africa from a Woman’s View.” *Essence* Feb. 1980: 12+.
- “Two Nigerian Women Writers.” *Centerpoint* 3.9 (1981).
- “It’s Me Who’s Changed.” *Opzij* (Amsterdam) Sept. 1981
- “Feminism with a Small ‘f.’” *The Leveller* 30 Oct. 1981: 15.
- Conversations with African Writers: Interviews with Twenty-six African Authors.* Ed. Lee Nichols. Washington D.C.: Voice of America, 1981.
- “Buchi Emecheta.” *Happy Home* Mar. 1982: 4+
- “Nefertiti’s New Clothes.” *Voice Literary Supplement* June 1982: 13–4.
- “Interview with Buchi Emecheta.” *Marxism Today* May 1983: 34–5.
- “A Room of My Own: Buchi Emecheta.” *Observer* 25 Mar. 1984: 46–7.
- “Buchi Emecheta at Spelman College.” *Sage* 2.1 (1985): 50–1.
- “An Interview with Buchi Emecheta.” *Ba Shiru* 12.2 (1985): 19–25.
- “Women and Empowerment: Interview with Buchi Emecheta.” *Ufahamu* 16.2 (1988): 93–100.
- “Buchi Emecheta.” *James* 35–46.
- “Buchi Emecheta.” Videocassette. Guardian Conversations Ser. East Sussex, U.K.: Rolland, n.d.
- “Buchi Emecheta: An African Story-Teller.” By Daphne Topouzis. *Africa Report* 35.2 (May–June 1990): 67–

70.

“A Writer Who Seeks To Reconcile Two Worlds.” *The New York Times* 2 June 1990.

“Interview with Buchi Emecheta.” *Interviews with Writers of the Post-Colonial World*. Ed. Feroza Jussawalla and Reed Way Dasenbrock. Jackson: U of Mississippi P, 1992. 82–91.

“Conversation with Buchi Emecheta.” *The Independent* Sept.–Oct. 1993: 19–2

“Conversation with Buchi Emecheta.” *Gender Issues in Nigeria: A Feminine Perspective*. T. Akachi Ezeigbo. Lagos, Nigeria: Vista, 1996. 95–105.

(8) Others

“The Extraordinary People Show: Buchi Emecheta.” B.B.C. Television Show, 1981.

“In the Light of Experience: Buchi Emecheta.” B.B.C. Television Show, 1983.

b. Works on Buchi Emecheta

Emenyonu, Ernest N., ed. *Critical Theory and African Literature*. Calabar Studies in African Literature 3. Ibadan, Nigeria: Heinemann Educational (Nigeria), 1987. (Emecheta の項のみの相互引照)

Allan, Tuzyline J. “Feminist and Womanist Aesthetics: A Comparative Study.” *DAI* 51 (1991): 3403 A. State U of New York, Stony Brook.

———. “*The Joys of Motherhood*: A Study of a Problematic Womanist Aesthetic.” *Womanist and Feminist Aesthetics: A Comparative Review*. Athens: Ohio UP, 1995. 95–117.

Andrade, Susan Z. “The Joys of Daughterhood: Gender, Nationalism, and the Making of Literary Tradition(s).” *Cultural Institutions of the Novel*. Ed. Deidre Lynch and William B. Warner. Durham, NC: Duke UP, 1996. 249–75.

———. “Rewriting History, Motherhood, and Rebellion: Naming an African Women’s History Literary Tradition.” *Research in African Literatures* 21.2 (1990): 91–110.

Asanbe, Joseph. “Context of Writer and Audience: Nwapa and Emecheta.” *LARES* 6–7 (1984–5): 186–96.

Barthelemy, Anthony. “Western Time, African Lives: Time in the Novels of Buchi Emecheta.” *Callaloo* 12.3 (1989): 559–74.

Bazin, Nancy Topping. “Feminist Perspectives in African Fiction: Bessie Head and Buchi Emecheta.” *Black Scholar* 17.2 (1986): 34–40.

———. “Weight of Custom, Signs of Change: Feminism in the Literature of African Women.” *World Literature Written in English* 25.2 (1985): 183–97.

Birch, Eva Lennox. “Autobiography: The Art of Self-Definition.” *Wisker* 127–45.

Brodzki, Bella. “‘Changing Masters’: Gender, Genre, and the Discourse of Slavery.” *Borderwork: Feminist Engagements with Comparative Literature*. Ed. Margaret R. Higonnet. Reading Women Writing. Ithaca: Cornell UP, 1994. 42–60.

Bruner, Charlotte. “The Other Audience: Children and the Example of Buchi Emecheta.” *The African Studies Review* 29.3 (1986): 129–40.

Bruner, Charlotte, and David Bruner. “Buchi Emecheta and Maryse Condé: Contemporary Writing from Africa and the Caribbean.” *World Literature Today* 59.1 (1985): 9–13.

Choi, Kyeong-Hee. “When the Colonized Mother Speaks: Post-Colonial and Maternal Narratives of Toni Morrison, Pak Wanso, and Buchi Emecheta.” *DAI* 57 (1997): 5148 A. Indiana U.

Christian, BarBara. “An Angle of Seeing: Motherhood in Buchi Emecheta’s *The Joys of Motherhood* and Alice

- Walker's *Meridian*." *Black Feminist Criticism*. New York: Pergamon, 1985. 211–52.
- Chukwuma, Helen. "Positivism and the Female Crisis: The Novels of Buchi Emecheta." Otokunefor and Nwodo 2–18.
- Cobham-Sandra, Rhonda. "Class vs Sex: The Problems of Values in the Modern Nigerian Novel." *The Black Scholar* 17.4 (1986): 17–27.
- Cooper, Helen. "Bessie Head and Buchi Emecheta: Voyagers." *Matatu* 11 (1994): 71–80.
- Davies, Carole Boyce. "Motherhood in the Works of Male and Female Igbo Writers: Achebe, Emecheta, Nwapa and Nzekwu." Davies and Graves 241–256.
- . "Private Selves and Public Spaces: Autobiography and the African Woman Writer." *College Language Association* 34.3 (1991): 267–89. Rpt. in *Criss-crossing Boundaries in African Literature, 1986*. Ed. Kenneth Harrow, et al. Washington D.C.: Three Continents, 1991. 109–27.
- Davis, Christina. "Mother and Writer: Means of Empowerment in the Work of Buchi Emecheta." *Commonwealth Essays and Studies* 13.1 (1990): 13–21.
- Diouf Kandji, Fatou. "Female Sexuality in Buchi Emecheta's Writings." *Bridges* 6 (1995): 11–27.
- Ebeogu, Afam. "Enter the Iconoclast: Buchi Emecheta and the Igbo Culture." *Commonwealth Essays and Studies* 7.2 (1985): 83–94.
- Emanuel George, Juliet. "The Quieted Voice in Multiculturalism: A Study of the Shifted Self in the Works of the Post-Colonial Writers Rhys, Riley, Emecheta, and Cliff." *DAI* 58 (1998): 4660 A. St. John's U.
- Ezeigbo, Theodora Akachi. "Traditional Women's Institutions in Igbo Society: Implications for the Igbo Female Writer." *African Languages and Cultures* 3.2 (1990): 149–65.
- Ezenwa Ohaeto. "Emecheta's Teenage Fiction: The Individual and Communal Values in *The Wrestling Match* and *The Moonlight Bride* ." *Commonwealth Essays and Studies* 13.1 (1990): 22–7.
- Fido, Elaine Savory. "Mother/lands: Self and Separation in the Work of Buchi Emecheta, Bessie Head and Jean Rhys." *Nasta* 330–49.
- Fishburn, Catherine. *Reading Buchi Emecheta: Cross-Cultural Conversations*. Contributions to the Study of World Literature 61. Westport, CT : Greenwood, 1995.
- Flewellen, Elinor C. "Assertiveness vs. Submissiveness in Selected Works by African Women Writers." *Ba Shuru* 12.2 (1985): 3–18.
- Frank, Katherine. "Women Without Men: The Feminist Novel in Africa." *African Literature Today* 15 (1987): 14–34.
- Gohrisch, Jana. "Crossing the Boundaries of Cultures: Buchi Emecheta's Novels." *Anglistik und Englischunterricht* 60 (1997): 129–42.
- Hooper, Lita. "A Black Feminist Critique of *The Bride Price* and *The Bluest Eye*." *Journal of African Children's and Youth Literature* 6 (1994–1995): 74–81.
- Hunter, Eva. "'What Exactly Is Civilisation?' 'Africa', 'The West', and Gender in Buchi Emecheta's *The Rape of Shavi*." *English Studies in Africa* 37.1 (1994): 47–61.
- Iyer, Lisa H. "The Second Sex Three Times Oppressed: Cultural Colonization and Coll(i)u(sion in Buchi Emecheta's Women." *Readerly Writerly Texts* 1.2 (1994): 97–114. Rpt. in *Writing the Nation: Self and Country in the Post-Colonial Imagination*. Ed. John C. Hawley. Critical Studies 7. Amsterdam: Rodopi, 1996. 123–38.
- Katrak, Ketu H. "Womanhood/Motherhood: Variations on a Theme in Selected Novels of Buchi Emecheta."

- The Journal of Commonwealth Literature* 22.1 (1987): 159–170.
- Kemp, Yakini. “Romantic Love and the Individual in Novels by Mariama Ba, Buchi Emecheta and Bessie Head.” *Obsidian II* 3.3 (1988): 1–16.
- Kenyon, Olga. “Alice Walker and Buchi Emecheta Rewrite the Myth of Motherhood.” *Forked Tongues? Comparing Twentieth-Century British and American Literature*. Ed. Ann Massa and Alistair Stead. London: Longman, 1994. 336–54.
- King, Bruce. “The New Internationalism: Shiva Naipaul, Salman Rushdie, Buchi Emecheta, Timothy Mo and Kazuo Ishiguro.” *The British and Irish Novel Since 1960*. Ed. James Acheson. New York: St. Martin’s, 1991. 192–211.
- Lewis, Desiree. “Myths of Motherhood and Power: The Construction of ‘Black Woman’ in Literature.” *English in Africa* 19.1 (1992): 35–51.
- Martini, Jurgen. “Linking Africa and the West: Buchi Emecheta.” *Festschrift zum 60.Geburtstag von Carl Hoffmann*. Ed. Franz Rottland. Hamburg: Buske, 1986. 223–33.
- Mezu, Rose Ure. “Buchi Emecheta’s *The Bride Price* and *The Slave Girl*: A Schizoanalytic Perspective.” *ARIEL* 28.1 (1997): 131–46.
- Nnaemeka, Obioma. “Feminist Protest in Buchi Emecheta’s Novels.” *International Third World Studies Journal and Review* 1.1 (1989): 1–10.
- . “From Orality to Writing: African Women Writers and the (Re) Inscription of Womanhood.” *Research in African Literatures* 25.4 (1994): 137–57.
- Newman, Judie. “‘He Neo-Tarzan, She Jane?’: Buchi Emecheta’s *The Rape of Shavi*.” *College English* 22.1 (1995): 161–70.
- Nwankwo, Chimalum. “Emecheta’s Social Vision: Fantasy or Reality?” *Ufahamu* 17.1 (1988): 35–44.
- Ogunyemi, Chikwenye O. “The Nigerian Female Novelist and the Feminist Encounter.” Paper presented at the Conference on the Black Women Writer and the Diaspora at Michigan State U, 27–30 Oct. 1985.
- . “Womanism: The Dynamics of the Contemporary Black Female Novel in English.” *Signs* 11.1 (1985): 63–80. Rpt. in *Revising the Word and the World: Essays in Feminist Literary Criticism*. Ed. Veve A. Clark, Ruth-Ellen B. Joeres and Madelon Sprengnether. Chicago: U of Chicago, 1993.
- Ojo-Ade, Femi. “Women and the Nigerian Civil War: Buchi Emecheta and Flora Nwapa.” *Etudes Germano-Africaines* 6 (1988): 75–86.
- Oko, Emelia. “The Female Estate: A Study of the Novels of Buchi Emecheta.” *Adebayo* 91–109.
- Oku, Juliana Inyang Essien. “Courtesans and Earthmothers: A Feminist Reading of Ekwensi’s *Jagua Nana’s Daughter* and Buchi Emecheta’s *The Joys of Motherhood*.” *Emenyonu* 225–33.
- Onwuhara, Kate. “The Tension of Two Cultures: Ambivalence in Buchi Emecheta’s Feminism.” *Emenyonu* 207–13.
- Opara, Chioma. “Clothing as Iconography: Examples of Bâ, Aidoo, and Emecheta.” *Adebayo* 110–25.
- Oriaku, Remy. “Buchi Emecheta: If Not a Feminist, Then What?” *Adebayo* 72–90.
- Petersen, Kirsten Holst. “Unorthodox Fictions about African Women.” *International Literature in English: Essays on the Major Writers*. Ed. Robert L. Ross. Garland Reference Library of the Humanities 1159. New York: Garland, 1991. 283–92.
- . “Unpopular Opinions: Some African Women Writers.” *Kunapipi* 7.2–3 (1985). Rpt. in *A Double Colonization: Colonial and Post-Colonial Women’s Writing*. Ed. Petersen and Anna Rutherford.

- Mundelstrup, Denmark: Dangaroo, 1986. 107–20.
- Phillips, Maggi. “Engaging Dreams: Alternative Perspectives on Flora Nwapa, Buchi Emecheta, Ama Ata Aidoo, Bessie Head, and Tsitsi Dangarembga’s Writing.” *Research in African Literatures* 25.4 (1994): 89–103.
- Ravell-Pinto, Thelma. “Buchi Emecheta at Spelman College.” *SAGE* 2.1 (1985): 50–1.
- Sample, Maxine J. Cornish. “The Representation of Space in Selected Works by Bessie Head, Buchi Emecheta, and Flora Nwapa.” *DAI* 51 (1990): 1611 A. Emory U.
- Sanders, Alvelyn J. “*The Bride Price* and Are You There God? : It’s Me, Margaret.” *Journal of African Children’s and Youth Literature* 7–8 (1995–1997): 28–38.
- Sarr, Ndiawar. “The Female Protagonist as Part of a Transitional Generation in *The Joys of Motherhood*.” *Bridges* 5.2 (1993): 25–33.
- Slomski, Genevieve. “Dialogue in the Discourse: A Study of Revolt in Selected Fiction by African Women.” *DAI* 47 (1986): 1721 A. Indiana U.
- Sougou, Omar. “The Experience of an African Woman in Britain: A Reading of Buchi Emecheta’s *Second-Class Citizen*.” *Crisis and Creativity in the New Literatures in English: Cross/Cultures*. Ed. Geoffrey V. Davis and Hena Maes Jelinek. Readings in the Post Colonial Literatures in English 1. Amsterdam: Rodopi, 1990. 511–22.
- Staub, Diane, and Lori Bianchini. “NCTE to You.” *College English* 55.3 (1993): 340–7.
- Stratton, Florence. “The Shallow Grave: Archetypes of Female Experience in African Fiction.” *Research in African Literatures* 19.1 (1988): 143–69.
- . “‘Their New Sister’: Buchi Emecheta and the Contemporary African Literary Tradition.” Stratton 108–32.
- Tax, Meredith. “Follow the Reader: Buchi Emecheta’s Text Education.” *Village Voice Literary Supplement* 85 (May 1990): 25.
- Umeh, Marie A. “Children’s Literature in Nigeria: Revolutionary Omissions.” *Preserving the Landscape of Imagination: Children’s Literature in Africa*. Ed. Raoul Granqvist and Jurgen Martini. Atlanta: Editions Rodopi, 1997. 191–206.
- . “A Comparative Study of the Idea of Motherhood in Two Third World Novels.” *College Language Association Journal* 31.1 (1987): 31–43.
- , ed. *Emerging Perspectives on Buchi Emecheta*. Trenton, NJ: Africa World, 1996.
- . “The Poetics of Thwarted Sensitivity.” Emenyonu 194–206.
- . “Reintegration with the Lost Self: A Study of Buchi Emecheta’s *Double Yoke*.” Davies and Graves 173–180.
- Uraizee, Joya Farooq. “‘Is There Nowhere Else Where We Can Meet?’: The Postcolonial Woman Writer and Political Fiction.” *DAI* 56 (1995): 562 A. Purdue U.
- Uwakweh, Pauline Ada. “The Dimensions of Female Militancy in African and African-American Women’s Fiction: Buchi Emecheta, Nawal El-Saadawi, Alice Walker, and Gloria Naylor.” *DAI* 56 (1996): 3574 A. Temple U.
- vanden Driesen, Cynthia. “Doughty Slave-Girls and Slavish Career-Girls: Representations of the West African (Ibo) Female in Selected Works of Emecheta and Achebe.” *SPAN* 36 (1993): 182–92.
- Ward, Cynthia. “What They Told Buchi Emecheta: Oral Subjectivity and the Joys of ‘Otherhood.’” *PMLA*

105.1 (1990): 83–97.

Yongue, Patricia Lee. “‘My Mother Is Here’: Buchi Emecheta’s Love Child.” *Women of Color: Mother-Daughter Relationships in 20 th-Century Literature*. Ed. Guillory Elizabeth Brown. Austin, TX: U of Texas P, 1996. 74–94.

7. Bessie Head

a. Works by Bessie Head

(1) Works of Fiction

When Rain Clouds Gather. New York: Simon, 1968.

Maru. London: Gollancz; Heinemann, 1971.

楠瀬佳子訳『マル——愛と友情の物語』学芸書林 1995年

A Question of Power. London: Davis-Poynter, 1973.

中村輝子訳『力の問題』学芸書林 1993年

The Collector of Treasures, and Other Botswana Village Tales. Oxford: Heinemann, 1977.

酒井格訳『宝を集める人——ボツワナの村の物語』創樹社 1992年

A Bewitched Crossroad: An African Saga. Craighall, South Africa: Donker, 1984.

Tales of Tenderness and Power. Ed. Gilliam Stead Eilersen. Johannesburg, South Africa: Donker, 1989.
Oxford: Heinemann, 1990.

くはたのぞみ訳『優しさと力の物語』スリーエーネットワーク 1996年（アフリカ文学叢書）

The Cardinals: With Meditations and Short Stories. Ed. M. J. Daymond. Cape Town, South Africa: Philip, 1993.

“Bessie Head: Unpublished Early Poems.” *English in Africa* 23.1 (1996): 40–45.

(2) Interviews

“Interview.” *Ms* Sep 1975: 72+

“Conversations with Bessie.” *World Literature Written in English* 17.2 (1978): 427–34.

“Bessie Head, South Africa.” *Conversations with African Writers*. Washington, D.C.: Voice of America, 1981.
49–57.

“Bessie Head in Garborne, Botswana: An Interview.” *Sage* 3.2 (1986): 44–7.

Between the Lines: Interviews with Bessie Head, Sheila Roberts, Ellen Kuzwayo, Miriam Tlali. Ed. Craig MacKenzie and Cherry Clayton. NELM Interviews Ser. 4. Grahamstown, South Africa: National English Literary Museum, 1989

(3) Others

Serowe: Village of the Rain Wind. Oxford: Heinemann, 1981. (a historical and anthropological record of a village)

A Woman Alone. Ed. Craig MacKenzie. Oxford: Heinemann, 1990. (autobiographical essays)

A Gesture of Belonging: Letters from Bessie Head, 1965–1979. Ed. Randolph Vigne. London: SA Writers; Portsmouth, NH: Heinemann, 1991.

b. Works on Bessie Head

(1) Bibliography

Giffuni, Cathy. *Bessie Head: A Bibliography*. Gaborne: Botswana National Library Service, 1987. 作品及び研究320項目 Earlier Version in *A Current Bibliography on African Affairs* 19.3 (1986–7).

Mackenzie, Craig, and Catherine Woerber. *Bessie Head: A Bibliography*. Rev. ed. NELM Bibliographic Ser. 1. Grahamstown, South Africa: National English Literary Museum, 1992. 作品77項目 研究598項目 1st ed. By Susan Gardner, 1986.

(2) **Books (1990年以前のものも含む)**

- Abrahams, Cecil, ed. *The Tragic Life: Bessie Head and Literature in Southern Africa*. Trenton: Africa World, 1990.
- Eilersen, Gillian Stead. *Bessie Head: Thunder Behind Her Ears: Her Life and Writing*. Studies in African Literature. Portsmouth, NH: Heinemann; London: Currey; Cape Town: Philip, 1995.
- Ibrahim, Huma. *Bessie Head: Subversive Identities in Exile*. Charlottesville: UP of Virginia, 1996.
- 楠瀬佳子 『ベッシー・ヘッド 拒絶と受容の文学——アパルトヘイトを生きた女たち』 第三書館 1999年
- MacKenzie, Craig. *Bessie Head: An Introduction*. NELM Introduction Ser. 1. Grahamstown, South Africa: National English Literary Museum, 1989
- Ola, Virginia Uzoma. *The Life and Works of Bessie Head*. Lewiston, NY: Mellen, 1994.
- Olaussen, Maria. *Forceful Creation in Harsh Terrain: Place and Identity in Three Novels by Bessie Head*. European University Studies. Ser. 14, Anglo-Saxon Language and Literature, Vol. 325; Europäische Hochschulschriften. Reihe 14, Angelsächsische Sprache und Literatur, Bd.325. Frankfurt am Main, Germany; New York: Peter Lang, 1997.

(3) **Articles**

- Achufusi, Ify [or Ifeyinwa] Grace. "Bessie Head, Grace Ogot and Varieties of Apartness" *Africana Marburgensia* 16 (1996): 11–20.
- . "Conceptions of Ideal Womanhood: The Example of Bessie Head and Grace Ogot." *Neohelicon* 19.2 (1992): 87–101.
- . "Criticism and Evaluation of Womanhood in the Fiction of Bessie Head and Grace Ogot." *Afrikanistische Arbeitspapiere* 31 (1992): 119–30.
- . "Female African Writers and Social Criticism: A Study of the Works of Bessie Head and Grace Ogot." *DAI* 52 (1991): 1745 A–46 A. U of Wisconsin, Madison.
- Balseiro, Isabel. "Nation, Race, and Gender in the Writings of Bessie Head and Rosario Ferre." *DAI* 53 (1993): 2802 A. New York U.
- Bazin, Nancy Topping. "Madness, Mysticism, and Fantasy: Shifting Perspectives in the Novels of Doris Lessing, Bessie Head, and Nadine Gordimer." *Extrapolation* 33.1 (1992): 73–87.
- . "Southern Africa and the Themes of Madness: Novels by Doris Lessing, Bessie Head and Nadine Gordimer." *International Women's Writing: New Landscapes of Identity*. Ed. Anne E. Brown and Marjanne E. Gooze. Contributions in Women's Studies 147. Westport, CT: Greenwood, 1995. 137–49.
- Beard, Linda Susan. "Bessie Head's Syncretic Fictions: The Reconceptualization of Power and the Recovery of the Ordinary." *Modern Fiction Studies* 37.3 (1991): 575–89.
- Bryce-Okunlola, Jane. "Motherhood as a Metaphor for Creativity in Three African Women's Novels: Flora Nwapa, Rebeka Njau and Bessie Head." *Nasta* 200–18.
- Campbell, Elaine. "The Theme of Madness in Four African and Caribbean Novels by Women." *Commonwealth Novel in English* 6.1–2 (1993): 133–41.
- Campbell, June M. "Beyond Duality: A Buddhist Reading of Bessie Head's *A Question of Power*." *Journal of Commonwealth Literature* 29.1 (1993): 64–81.

- Chetin, Sara. "Rereading and Rewriting African Women: Ama Ata Aidoo and Bessie Head." *DAI* 53 (1992): 808 A. U of Kent.
- Chien, Ying Ying. "Deconstructing Patriarchy/Reconstructing Womanhood: Feminist Readings of Multicultural Women's Murder Films." *Tamkang Review* 26.1-2 (1995): 265-87.
- Coetzee, Paulette and Craig MacKenzie. "Bessie Head: Rediscovered Early Poems." *English in Africa* 23.1 (1996): 29-39.
- Cooper, Helen. "Bessie Head and Buchi Emecheta: Voyagers." *Matatu* 11 (1994): 71-80.
- Coundouriotis, Eleni. "Authority and Invention in the Fiction of Bessie Head." *Research in African Literatures* 27.2 (1996): 17-32.
- Desai, Gaurav. "Out in Africa." *Genders* 25 (1997): 120-143. Rpt. in *Sex Positives?: The Cultural Politics of Dissident Sexualities*. Ed. Thomas Foster, Carol Siegel and Ellen E. Berry. *Genders* 25. New York, NY: New York UP, 1997. 120-43.
- Driver, Dorothy. "Reconstructing the Past, Shaping the Future: Bessie Head and the Question of Feminism in a New South Africa." *Wisker* 160-87.
- . "Transformation through Art: Writing, Representation, and Subjectivity in Recent South African Fiction." *World Literature Today* 70.1 (1996): 45-52.
- Eilersen, Gillian Stead. "Social and Political Commitment in Bessie Head's *A Bewitched Crossroad*." *Critique* 33.1 (1991): 43-52.
- Elder, Arlene A. "Bessie Head: New Considerations, Continuing Questions." *Callaloo* 16.1 (1993): 277-84.
- Fido, Elaine Savory. "Mother/lands: Self and Separation in the Work of Buchi Emecheta, Bessie Head and Jean Rhys." *Nasta* 330-49.
- Flanagan, Kathleen. "Madness as Exile, Madness as Power: Bessie Head's *A Question of Power*." *MAWA Review* 7.2 (1992): 90-3.
- Fragd, Lula Mae. "U Got 2 Dis B 4 U Re/From Disease to Revival: Reading the Themes of Madness in Pan African Women's Literature." *DAI* 56 (1995): 1769 A. U of California, Berkeley.
- Gagiano, Annie. "Finding Foundations for Change in Bessie Head's *The Cardinals*." *The Journal of Commonwealth Literature* 31.2 (1996): 47-60.
- Harrow, Kenneth W. "Bessie Head and Death: Change on the Margins." *Shades of Empire in Colonial and Post-Colonial Literatures*. Ed. C. Barfoot C. and Theo D'haen. *Studies in Literature* 11. Amsterdam: Rodopi, 1993. 165-78.
- . "Bessie Head's *The Collector of Treasures*: Change on the Margins." *Callaloo* 16.1 (1993): 169-79.
- Hogan, Patrick Colm. "Bessie Head's *A Question of Power*: A Lacanian Psychosis." *Mosaic* 27.2 (1994): 95-112.
- Ingersoll, Earl G. "Sexuality in the Stories of Bessie Head." *College Language Association Journal* 39.4 (1996): 458-67.
- Jagne, Siga Fatima. "African Women and the Category 'Woman': Through the Works of Mariama Bâ and Bessie Head." *DAI* 55 (1995): 3837 A. State U of New York, Binghamton.
- Johnson, Joyce. "Proper Names and Thematic Concerns in Bessie Head's Novels." *World Literature Written in English* 30.1 (1990): 132-40.
- Kibera, Valerie. "Adopted Motherlands: The Novels of Marjorie Macgoye and Bessie Head." *Nasta* 310-29.
- Kincaid, Weekes, Mark. "Re-Placing the Exiled Imagination: D. H. Lawrence and Bessie Head." *Swansea Review* (1994): 43-62.

- Lederer, Mary Susan. "Becoming a Prophet: Representations of Madness in Bessie Head's Novels." *DAI* 57 (1996): 677 A. U of California, Los Angeles.
- Lewis, Desiree. "The Cardinals and Bessie Head's Allegories of Self." *World Literature Today* 70.1 (1996): 73–77.
- Lionnet, Françoise. "Geographies of Pain: Captive Bodies and Violent Acts in the Fictions of Myriam Warner Vieyra, Gayl Jones, and Bessie Head." *Callaloo* 16.1 (1993): 132–52. Rpt. in *Postcolonial Representations: Women, Literature, Identity*. Ithaca: Cornell UP, 1995. 101–28; and Nnaemeka, *Politics* 205–27.
- Lorenz, Paul H. "Colonization and the Feminine in Bessie Head's *A Question of Power*." *Modern Fiction Studies* 37.3 (1991): 591–605.
- MacKenzie, Craig. "Alienation, Breakdown, and Renewal." *International Literature in English: Essays on the Major Writers*. Garland Reference Library of the Humanities 1159. Ed. Robert L. Ross. New York: Garland, 1991. 557–69.
- . "Allegiance and Alienation in the Novels of Bessie Head." *Essays on African Writing, 1: A Re-evaluation*. Ed. Abdulrazak Gurnah. Oxford: Heinemann, 1993. 111–25.
- Matsikidze, Isabella [Pupurai]. "Beyond Revolution: Nationalism and the South African Woman Author." *Writing the Nation: Self and Country in the Post-Colonial Imagination*. Ed. John C. Hawley. Critical Studies 7. Amsterdam: Rodopi, 1996. 139–50.
- . "Connecting the Spheres: The Home Front and the Public Domain in Bessie Head's Fiction." *DAI* 52 (1992): 3925 A–26 A. U of Massachusetts.
- . "The Postnationalistic Phase: A Poetics of Bessie Head's Fiction." *Bucknell Review* 37.1 (1993): 123–33.
- . "Toward a Redemptive Political Philosophy: Bessie Head's *Maru*." *World Literature Written in English* 30.2 (1990): 105–9.
- Menager-Everson, V. S. "*Maru* by Bessie Head: The Dilepe Quartet from Drought to Beer." *Commonwealth Essays and Studies* 14.2 (1992): 44–8.
- Mukherjee, Arun P. "Bahktinian Dialogism and Bessie Head's Dialogue with India." *Dialogism and Cultural Criticism*. Ed. Clive Thomson, and Raj Dua Hans. London: Mestengo, 1995. 217–35.
- Newell, Stephanie. "Conflict and Transformation in Bessie Head's *A Question of Power*, *Serowe: Village of the Rain Wind* and *A Bewitched Crossroad*." *The Journal of Commonwealth Literature* 30.2 (1995): 65–83.
- Newmarch, David. "*Bewitched Crossroads*: The Problematic of Bessie Head's Contribution to a Literature of Botswana." *Swansea Review* (1994): 439–49.
- Nixon, Rob. "Refugees and Homecomings: Bessie Head and the End of Exile." *Late Imperial Culture*. Ed. Roman de la Campa, Ann Kaplan E. and Michael Sprinker. London: Verso, 1995. 149–65.
- Olaogun, Modupe O. "Irony and Schizophrenia in Bessie Head's *Maru*." *Research in African Literatures* 25.4 (1994): 69–87.
- Osagie, Iyunolu Folayan. "Technologies of Myth and the Inscription of Subjectivity: Reading Bessie Head's *A Question of Power* and Toni Morrison's *Beloved*." *DAI* 53 (1993): 2805 A. Cornell U.
- Phillips, Maggi. "Engaging Dreams: Alternative Perspectives on Flora Nwapa, Buchi Emecheta, Ama Ata Aidoo, Bessie Head, and Tsitsi Dangarembga's Writing." *Research in African Literatures* 25.4 (1994): 89–103.
- Rooney, Caroline. "'Dangerous Knowledge' and the Poetics of Survival: A Reading of *Our Sister Killjoy* and *A Question of Power*." *Nasta* 99–126.
- Rose, Jacqueline. "On the 'Universality' of Madness: Bessie Head's *A Question of Power*." *Critical Inquiry* 20.3

- (1994): 401–18.
- Sample, Maxine [J. Cornish]. “Landscape and Spatial Metaphor in Bessie Head’s *The Collector of Treasures*.” *Studies in Short Fiction* 28.3 (1991): 311–9.
- . “Psychic Journeys and the Fragmented Self: Navigating Bessie Head’s *A Question of Power* and Alice Walker’s *Possessing the Secret of Joy*: Proceedings of the First Conference of the Cape American Studies Association, 4 July 1996.” *Fissions and Fusions*. Ed. Lesley Marx, Loes Nas and Lara Dunwell. Bellville, South Africa: University of the Western Cape, 1997. 64–71.
- . “The Representation of Space in Selected Works by Bessie Head, Buchi Emecheta, and Flora Nwapa.” *DAI* 51 (1990): 1611 A. Emory U.
- Schafer, Uwe. “‘Both/and’ and/or ‘Either/or’: Syncretism and Imagination in the Novels of Wilson Harris and Bessie Head.” *Stummer and Balme* 41–7.
- Severac, Alain. “Beyond Identity: Bessie Head’s Spiritual Quest in *Maru*.” *Commonwealth Essays and Studies* 14.1 (1991): 58–64.
- Starfield, Jane. “The Return of Bessie Head.” *Journal of South African Studies* 23.4 (1997): 655–64.
- Streiter, Susan E. “*A Question of Power*: Bessie Head Confronts Francis Bacon’s Idols.” *The Arkansas Review* 4.1 (1995): 31–44.
- Visel, Robin. “‘We Bear the World and We Make It’: Bessie Head and Olive Schreiner.” *Research in African Literatures* 21.3 (1990): 115–24.
- Zeleza, Paul Tiyambe. “Visions of Freedom and Democracy in Postcolonial African Literature.” *Women’s Studies Quarterly* 25.3–4 (1997): 10–33.

8. Flora Nwapa

a. Works by Flora Nwapa

(1) Works of Fiction

(a) Novels

Efuru. London: Heinemann, 1966.

Idu. London: Heinemann, 1970.

Never Again. Enugu, Nigeria: Nwamife, 1975. Trenton, NJ: Africa World, 1992.

One is Enough. Enugu, Nigeria: Tana, 1981. Trenton, NJ: Africa World, 1992.

Women are Different. Enugu, Nigeria: Tana, 1986. Trenton, NJ: Africa World, 1992.

The Lake Goddess. Lawrenceville, NJ: Africa World, 1995.

The Umbilical Cord. Unpublished manuscript.

(b) Short Stories

“My Spoons Are Finished.” *Présence Africaine* 63 (1967): 227–35.

“Idu.” *Présence Africaine* 1.4 (1968): 50–2.

This is Lagos and Other Stories. Enugu, Nigeria: Nwankwo-Ikejika, 1971. Trenton, NJ: Africa World, 1992.

“The Campaigner.” *The Insider: Stories of War and Peace from Nigeria*. Ed. Chinua Achebe. Enugu, Nigeria: Nwankwo-Ifejika, 1971. 73–8. Rpt. in *African Rhythms: Selected Stories and Poems*. Ed. Charlotte Brooks. New York: Washington Square, 1974. 136–55.

“Ada.” *Black Orpheus* 3.4 (1976): 20–30.

Wives At War and Other Stories. Enugu, Nigeria: Tana, 1980. Trenton, NJ: Africa World, 1992.

The New Game and Other Stories. Unpublished Manuscript.

The Silent Passengers and Other Stories. Unpublished Manuscript.

Miri and Other Stories. Unpublished Manuscript.

The Debt and Other Stories. Unpublished Manuscript.

(c) **Plays**

The First Lady: [A Play]. Enugu, Nigeria: Tana, 1993.

“The Sychophants.” *Conversations: [Plays]*. Enugu, Nigeria: Tana, 1993.

“Two Women in Conversation.” *Conversations: [Plays]*. Enugu, Nigeria: Tana, 1993.

(d) **Children’s Literature**

Emeka – Driver’s Guard. London: U of London, 1972.

Mammywater. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1979.

My Animal Colouring Book. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1979.

My Tana Colouring Book. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1979.

The Adventures of Deke. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1980.

Journey to Space and Other Stories. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1980.

The Miracle Kittens. Read It Yourself Ser. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1980.

My Tana Alphabet Book. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1981.

My Animal Number Book. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1981.

(e) **Poetry**

Cassava Song and Rice Song. Enugu, Nigeria: Tana, 1986.

(2) **Essays**

“Women in Politics.” *Présence Africaine* 141.1 (1987): 115–21.

“Nigeria-The Woman as a Writer.” *Realities* (1985): 1+

“Sisterhood and Survival: The Nigerian Experience.” Paper presented at the Second International Feminist Book Fair, Oslo, Norway, 1986. 1–20. Unpublished paper.

“Writers, Printers and Publishers.” *Guardian* (Lagos, Nigeria) 17 Aug. 1988: 16.

“The Role of Women in Nigeria.” 1–17. Unpublished paper.

“Priestesses and Power among the Riverain Igbo.” *Queens, Queen Mothers, Priestesses and Power: Case Studies in African Gender*. Ed. Flora Edouwaye S. Kaplan. New York: New York Academy of Sciences, 1997. 415–24.

“Women and Creative Writing in Africa.” Nnaemeka, *Sisterhood* 89–99.

“Writing and Publishing for Children in Africa-A Personal Account.” *Preserving the Landscape of the Imagination: Children’s Literature in Africa*. Ed. Raoul Granqvist and Jurgen Martini. Amsterdam; Atlanta: Rodopi, 1997. 265–75.

(3) **Interviews**

Interview. *West Africa* 14 July 1972: 891

Interview. *West Africa* 9 Oct. 1972: 1355.

- “Flora Nwakuche.” Ed. John Agueta. *Interview with Six Nigerian Writers*. Benin, Nigeria: Bendel Newspapers, 1974. 22–7.
- “Flora Nwakuche.” *Sunday Observer* 18 Aug. 1975: 6.
- “Flora Nwakuche, nee Nwapa, A Former Cabinet Minister and One of Africa’s Leading Women Writers, Talks to Austa Uwechue.” *Africa Woman* 10 (1977): 8–10.
- “Personality Interviewed.” *Cactus* (1980–81): 28–9.
- “Nwakuche-Novelist with Concern for Women.” *Daily Times* (Lagos) 3 July 1982: 7.
- “Flora Nwapa, Africa’s First Woman Publisher.” *Africa Now* May 1983: 61–2.
- “Meeting Flora Nwapa.” *West Africa* 18 June 1984: 1262.
- “Flora Nwapa: The Stories of Women Come Naturally to Me.” *The Guardian* (Lagos) 25 Mar. 1985: 4.
- “Flora Nwapa Interviewed.” *Outlook* 1 (1986): 1–7.
- “We Are Not Feminists.” *African Guardian* 18 Sept. 1986: 40.
- “Flora Nwapa: Nigeria’s First Female Novelist.” *National Concord* 23 Jan. 1989: 7.
- “Flora Nwapa.” *James* 111–7.
- “A Writer Who Seeks to Reconcile 2 Worlds.” *The New York Times* 2 June 1990.
- “Interview with Flora Nwapa: some ANA Members Are Crazy.” *Quality Weekly* 23 Aug. 1990: 28+
- “Flora Nwapa: An Interview.” *Commonwealth of Letters* 2.1 (1990): 14–27.
- “Flora Nwapa: A Swipe at the Ideologies.” *The Guardian* (Lagos) 5 Jan. 1991: 6.
- “Interview for the VOA with Flora Nwapa, ALA Annual Meeting March 23, 1991.” *ALA Bulletin* 17.3 (1991): 8–9.
- “Nigerian Female Writers: Scanty Drops from the Inkpot.” *Sunday Times* 22 Sept. 1991: 17–8.
- “I Am Not a Feminist-Flora Nwapa.” *Daily Times* (Lagos) 16 Nov. 1991: 20.
- “Flora Nwapa.” *ALA Bulletin* 19.4 (1993): 12–8.
- Umeh, Marie. “The Poetics of Economic Independence for Female Empowerment: An Interview with Flora Nwapa.” *ALA Bulletin* 20.2 (1994): 26–36. Rpt. in *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 22–9.
- “A Chat with Flora Nwapa.” *Gender Issues in Nigeria: A Feminine Perspective*. T. Akachi Ezeigbo. Lagos, Nigeria: Vista, 1996. 89–94.

(4) Others

Golden Wedding Jubilee of Chief and Mrs. C. I. Nwapa, April 20, 1930–April 20, 1980. Enugu, Nigeria: Flora Nwapa, 1980. (biography)

b. Works on Flora Nwapa

- Acholonu, Rose. “The Dynamism of Love: Flora Nwapa’s *Idu* and *Efuru*.” *Family Love in Nigerian Fiction: Feminist Perspectives*. Ed. Acholonu. Owerri, Nigeria: Achinsons, 1995. 126–48.
- . “Flora Nwapa’s Heroines: *One is Enough* and *Women Are Different*.” *Family Love in Nigerian Fiction: Feminist Perspectives*. Ed. Acholonu. Owerri, Nigeria: Achinsons, 1995. 177–92.
- Achufusi, Ify [or Ifeyinwa] G[race]. “Feminist Inclinations of Flora Nwapa.” *African Literature Today* 19 (1994): 101–14.
- Aidoo, Ama Ata. “THESE DAYS [III]-A Letter to Flora Nwapa.” *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 17–21. (poem)
- Andrade, Susan Z. “The Joys of Daughterhood: Gender, Nationalism, and the Making of Literary

- Tradition(s).” *Cultural Institutions of the Novel*. Eds. Deidre Lynch; and William B. Warner. Durham, NC: Duke UP, 1996. 249–75.
- . “Rewriting History, Motherhood, and Rebellion: Naming an African Women’s Literary Tradition.” *Research in African Literatures* 21.2 (1990): 91–110.
- Asanbe, Joseph. “Context of Writer and Audience: Nwapa and Emecheta.” *LARES* 6–7 (1984–5): 186–96.
- Azuonye, Chukwuma. “Folk Stereotypes and the Theme of Marital Compatibility in the Novels of Flora Nwapa.” *NKA* 2 (1988): 1–2.
- Bala, L. Sasi. “Heroines of Flora Nwapa.” *Commonwealth Fiction*. 2nd vol. Ed. R. K. Dhawan. New Delhi: Classical, 1988. 260–72.
- Banyiwa-Horne, Naana. “African Womanhood: The Contrasting Perspectives of Flora Nwapa’s *Efuru* and Elechi Amadi’s *The Concubine*.” Davies and Graves 119–29.
- Bazin, Nancy Topping. “Weight of Custom, Signs of Change: Feminism in the Literature of African Women.” *World Literature Written in English* 25.2 (1985): 183–97.
- Berrian, Brenda F. (compiler) “Flora Nwapa (1931–1993): A Bibliography.” *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 124–9.
- . “In Memoriam: Flora Nwapa.” *Signs* 20.4 (1995): 126–9.
- . “The Reinvention of Woman Through Conversations and Humor in Flora Nwapa’s *One Is Enough*.” *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 53–67.
- Boehmer, Elleke. “Stories of Women and Mothers: Gender and Nationalism in the Early Fiction of Flora Nwapa.” *Nasta* 3–23.
- Bryce-Okunlola, Jane. “Motherhood as a Metaphor for Creativity in Three African Women’s Novels: Flora Nwapa, Rebeka Njau and Bessie Head.” *Nasta* 200–18.
- Busia, Abena. “A Tribute from the President of the ALA.” *ALA Bulletin* 20.1 (1994): 7.
- Chukwuma, Helen. “Flora Nwapa is Different.” *Chukwuma* 115–30.
- Coulon, Virginia. “*Women at War*: Nigerian Women Writers and the Civil War.” *Commonwealth Essays and Studies* 13.1 (1990): 1–12.
- Davies, Carole Boyce. “Motherhood in the Works of Male and Female Igbo Writers: Achebe, Emecheta, Nwapa and Nzekwu.” Davies and Graves 241–56.
- Duruoha, S. I. “The Language of Flora Nwapa’s *Efuru* and *Idu*: A Study in Ambiguity.” *Adebayo* 126–33.
- Egejuru, Phaniel. “Flora, OnyiBa Nwanyi.” *ALA Bulletin* 20.1 (1994): 16–7.
- . “The Nigerian Civil War and the Nigerian Novel: The Writer as Historical Witness.” *Studies on the Nigerian Novel*. Ibadan, Nigeria: Heinemann, 1991. 89–105.
- Eko, Ebele, Julius Ogu and Emelia Oko. *Flora Nwapa: Critical Perspectives*. Calabar: U of Calabar P, 1997.
- Emenyonu, Patricia T. “The Role of Contemporary Female Nigerian Writers in the Education of Nigerian Youth.” *Literary Criterion* 23.1–2 (1988): 216–21.
- Ezeigbo, Theodora Akachi. “Gender Conflict in Flora Nwapa’s Novels.” *Newell* 95–104.
- . “Traditional Women’s Institutions in Igbo Society: Implications for the Igbo Female Writer.” *African Languages and Cultures* 3.2 (1990): 149–65.
- Ezenwa Ohaeto. “The Child Figures and Childhood Symbolisms in Flora Nwapa’s Children’s Fiction.” *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 68–79.
- . “The Notion of Fulfillment in Flora Nwapa’s *Women Are Different*.” *Neohelicon* 19.1 (1992): 323–33.

- Frank, Katherine. "Women Without Men: The Feminist Novel in Africa." *African Literature Today* 15 (1987): 14–34.
- Ikonne, Chidi. "The Folk Roots of Flora Nwapa's Early Novels." *African Literature Today* 18 (1992): 96–102.
- Jell-Bahlsen, Sabine. "The Concept of Mammywater in Flora Nwapa's Novels." *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 30–41.
- Loflin, Christine. "Flora Nwapa." Parekh and Jagne 337–44.
- Lyonga, Pauline Nalova. "Uhamiri or a Feminist Approach to African Literature: An Analysis of Selected Texts by Women in Oral and Written Literature." *DAI* 46.7 (1986): 1940 A. U of Michigan.
- Maja-Pearce, Adewale. "Flora Nwapa's *Efuru*: A Study in Misplaced Hostility." *World Literature Written in English* 25 (1985): 10–5.
- Mojola, Yemi [I]. "The Novelist's View of Women in Igbo Traditional Culture: The Example of Flora Nwapa." *Nigeria Magazine* 563–4 (1988): 25–33.
- . "The Works of Flora Nwapa." Otokunefor and Nwodo 19–29.
- Mugambi, Helen NaBasuta. "Re-creating a Discourse: the Scriptable Novels of Nwapa and Emecheta." *Understanding Women: The Challenge of Cross-Cultural Perspectives*. Ed. Marilyn R. Walden, Artemis Leontis and Muge Galin. Papers in Comparative Studies 7. Athens: the Ohio State U, 1992. 167–79.
- Njoku, Teresa U. "Womanism in Flora Nwapa's *One Is Enough* and *Women Are Different*." *Commonwealth Quarterly* 14. 39 (1989): 1–16.
- Nnaemeka, Obioma. "Feminism, Rebellious Women, and Cultural Boundaries: Rereading Flora Nwapa and Her Compatriots." *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 80–113.
- . "From Orality to Writing: African Women Writers and the (Re) Inscription of Womanhood." *Research in African Literatures* 25.4 (1994): 137–57.
- Nwankwo, Chimalum. "The Igbo Word in Flora Nwapa's Craft." *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 42–52.
- Ogunyemi, Chikwenye Okonjo. "Introduction: The Invalid, Dea(r)th, and the Author: The Case of Flora Nwapa, aka Professor (Mrs.) Flora Nwanzuruahu Nwakuiche." *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 1–16.
- . "Womanism: The Dynamics of the Contemporary Black Female Novel in English." *Signs* 11.1 (1985): 63–80. Rpt. in *Revising the Word and the World: Essays in Feminist Literary Criticism*. Ed. Veve A. Clark, Ruth-Ellen B. Joeres and Madelon Sprengnether. Chicago: U of Chicago, 1993.
- Oha, Obododimma. "Culture and Gender Semantics in Flora Nwapa's Poetry." Newell 105–16.
- Ojo-Ade, Femi. "Women and the Nigerian Civil War: Buchi Emecheta and Flora Nwapa." *Etudes Germano-Africaines* 6 (1988): 75–86.
- Petersen, Kirsten Holst. "Unpopular Opinions: Some African Women Writers." *Kunapipi* 7.2–3 (1985): 107–20. Rpt. in *A Double Colonization: Colonial and Post-colonial Women's Writing*. Ed. Petersen and Anna Rutherford. Mundelstrup, Denmark: Dangaroo, 1986. 107–22.
- Phillips, Maggi. "Engaging Dreams: Alternative Perspectives on Flora Nwapa, Buchi Emecheta, Ama Ata Aidoo, Bessie Head, and Tsitsi Dangarembga's Writing." *Research in African Literatures* 25.4 (1994): 89–103.
- Research in African Literatures* 26.2 (1995). Special issue on Flora Nwapa. Ed. Chikwenye Okonjo Ogunyemi and Marie Umeh.

- Sample, Maxine [J. Cornish]. "In Another Life: The Refugee Phenomenon in Two Novels of the Nigerian Civil War." *Modern Fiction Studies* 37.3 (1991): 445–54.
- . "The Representation of Space in Selected Works by Bessie Head, Buchi Emecheta, and Flora Nwapa." *DAI* 51.1 (1990): 1611 A. Emory U.
- Stratton, Florence. "Flora Nwapa and the Female Novel of Development." Stratton 80–107.
- Strong Leek, Linda McNeely. "Excising the Spiritual, Physical, and Psychological Self: An Analysis of Female Circumcision in the Works of Flora Nwapa, Ngugi Wa Thiongo, and Alice Walker." *DAI* 55 (1995): 1951 A. Michigan State U.
- Swann, Joseph. "The Heroic, the Ironic, and the Underlying Condition: Interpretations of (African) Life in the Short Stories of Cyprian Ekwensi, Chinua Achebe and Flora Nwapa." *The Story Must Be Told: Short Narrative Prose in the New English Literatures*. Ed. Peter O. Strummer. Wurzburg: Konigshausen und Neumann, 1986. 47–57.
- Umeh, Marie, ed. *Emerging Perspectives on Flora Nwapa: Critical and Theoretical Essays*. Trenton, NJ: Africa World, 1998.
- . "Finale: Signifyin(g) The Griottes: Flora Nwapa's Legacy of (Re)Vision and Voice." *Research in African Literatures* 26.2 (1995): 114–23.
- . "A Tribute to Flora Nwapa." *ALA Bulletin* 20.1 (1994): 8–9.
- Wilentz, Gay. "Flora Nwapa: *Efuru*." Wilentz 3–19.
- . "Flora Nwapa [Nwakuche] 1931–1993." *ALA Bulletin* 20.1 (1994): 12–3.
- . "The Individual Voice in the Communal Chorus: The Possibility of Choice in Flora Nwapa's *Efuru*." *ACLALS Bulletin* 7.4 (1986): 30–36.
- Zongo, Opportune. "Rethinking African Literary Criticism: Obioma Nnaemeka." *Research in African Literatures* 27.2 (1996): 178–84.

9. Grace Ogot

a. Works by Grace Ogot

(1) Works of Fiction

(a) Novels

The Promised Land. Nairobi: East African, 1966.

Nehi Bila Ngurumo. Swahili translation. Nairobi: Longman, 1979.

The Graduate. Nairobi: Uzima, 1980.

Ber Wat. (Luo novel)

A loo kod Apol Apol. (Luo novel Based on Luo myth and legends)

Simbi Nyayima. (Luo novel Based on Luo myth and legends)

Miaha. Nairobi: Heinemann, 1983. (Luo novel)

The Strange Bride. Trans. Okoth Okombo. Nairobi: Heinemann, 1989.

(b) Short Stories

"The Year of the Sacrifice." *Black Orpheus* 11 (1962): 41–50.

"Ward Nine." *Transition* 3.13 (1966): 11–8.

Land Without Thunder. Nairobi: East African, 1968.

土屋英子訳 「エリザベス」 土屋哲編訳 『現代アフリカ文学短編集』 鷹書房 1977年 183-205頁

“The Promised Land.” *Palaver: Modern African Writings*. Ed Wilfred Cartey. New York: Nelson, 1970. 83-92.

“Anyiembo’s Ghost.” *Viva* 1.1 (1974): 51-5.

The Other Woman. Nairobi: Transafrica, 1977.

“The Fisherman.” *Folkei Bilk-Kulturfront* (Stockholm), 21 Nov. 1979: 15-21.

The Island of Tears. Nairobi: Uzima, 1980.

(c) Plays

“Oganda’s Journey.” *Staffrider* 2.3 (1979): 38-47. (A dramatization by Ezekiel Mphahlele of a short story by Grace Ogot)

“Miahe.” Reunion Cultural Group, Kisumu, Kenya, 28 Dec. 1981-1 Jan. 1982. (A play adapted by Asenath Odaga in Luo from the novel *The Promised Land*)

(2) Essays

Rev. of *Efuru*, by Flora Nwapa. *East African Journal* 3.7 (1966): 38-9.

“Family Planning for African Women.” *East Africa Journal* 4.4 (1967): 19-23.

“The African Writer.” *East Africa Journal* 5.9 (1968): 35-7.

(3) Interviews

“A Writer Prefers Pleasing to Preaching.” *Sunday Nation* 28 Nov. 1971: 15-6.

“Grace Ogot.” *Topic* 92 (1975): 5.

“Genuine Talent.” *Viva* 2.11 (1976): 19.

“An Afternoon with Grace Ogot.” *Femina* 8-22 Sep. 1979: 39.

“Interview with Grace Ogot.” *World Literature Written in English* 18.1 (1979): 57-68.

“Grace Ogot.” *Mzungumzo: Interviews with East African Writers, Publishers, Editors, and Scholars*. Ohio U Monographs in International Studies, Africa Ser. 41. Athens, OH: Ohio U, 1981. 123-3.

“Grace Ogot.” *Wanasema: Conversations with African Writers*. Ed. Donald Burness. Ohio U Monographs in International Studies, Africa Ser. 46. Athens, OH: Ohio U, 1985. 59-66.

“Distant Voices: The Lives of African Women.” *Boston Globe Magazine* 26 Jan. 1986: 50+

(4) Others

A Glossary in English-Kiswahili, Kikuyu and Dhuluo. London: Cassell, 1972. (Co-author)

Reading of the short story, “The Middle Door,” from *The Other Woman* (1976). Audiotape. First Person Feminine, Radio Ser., Iowa State U, Ames, Iowa. IV.

b. Works on Grace Ogot

Achufusi, Ify [or Ifeyinwa] Grace. “Bessie Head, Grace Ogot and Varieties of Apartness.” *Africana Marburgensia* 16 (1996): 11-20.

———. “Conceptions of Ideal Womanhood: The Example of Bessie Head and Grace Ogot.” *Neohelicon*: 19.2 (1992): 87-101.

———. “Criticism and Evaluation of Womanhood in the Fiction of Bessie Head and Grace Ogot.” *Afrikanistische Arbeitspapiere* 31 (1992): 119-30.

———. “Female African Writers and Social Criticism: A Study of the Works of Bessie Head and Grace

- Ogot.” *DAI* 52 (1991): 1745 A–46 A. U of Wisconsin, Madison.
- . “Problems of Nationhood in Grace Ogot’s Fiction.” *The Journal of Commonwealth Literature* 26.1 (1991): 179–87.
- Flanagan, Kathleen. “African Folk Tales as Disruptions of Narrative in the Works of Grace Ogot and Elspeth Huxley.” *Women’s Studies* 25.4 (1996): 371–84.
- Reid, Margaret A. “Conflict or Compromise: The Changing Roles of Women in the Writings of Rebekah Njau and Grace Ogot.” *MAWA Review* 5.2 (1990): 51–55.
- Stratton, Florence. “Men Fall Apart: Grace Ogot’s Novels and Short Stories.” *Stratton* 58–79.

(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究機関研究員)